健康・安全に関する実践力を育てる保健学習指導
―ケーススタディーを位置付けた授業づくりを通して―

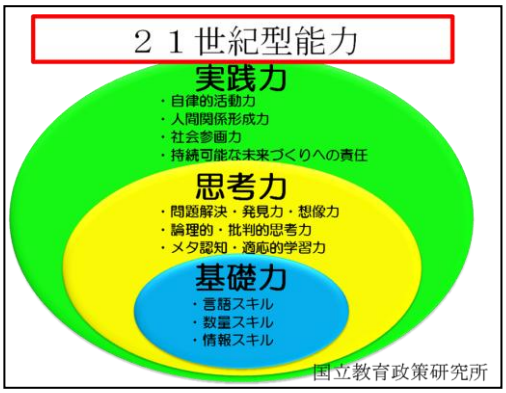
長期派遣研修員　　福岡県立筑紫中央高等学校　　教諭　　水島　豊

Ⅰ　主題設定の理由

1　社会の要請・教育の動向から

我が国では，超少子高齢社会や情報化等，社会の急激な変化に伴って，児童生徒の成育環境や生活行動の変化が著しい。また，国民の疾病構造等の変化に関わって深刻化している心の健康，食生活をはじめとする生活習慣の乱れ，交通事故や地震・豪雨等の自然災害による予期せぬ危険な状況が起こり得る等，我が国は健康・安全に関する課題が山積している，先が見通しにくい社会である。

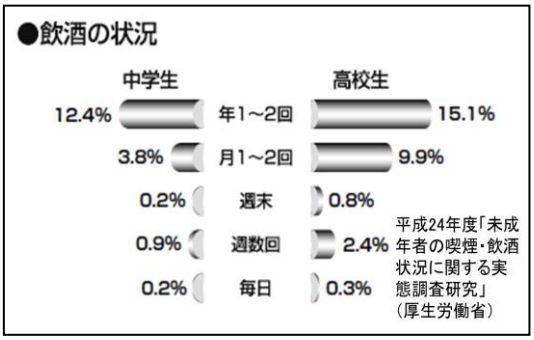
国立教育政策研究所は,「社会の変化に対応して求められる資質・能力を育成する観点から教育課程を編成する必要がある」とし，21 世紀を生き抜く力を「21 世紀型能力」と名付け，提案している【資料 1】。「21 世紀型能力」とは，学力の三要素（①基礎的・基本的な知識・技能の習得，②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等，③学習意欲）を「課題を解決するための資質・能力」という視点で再構成したものである。具体的には，「思考力」を中核として，それを支える「基礎力」，その使い方を方向づける「実践力」の三層構造で構成されている。このことからも，社会の変化に対応する資質や能力として実践力が求められていることが分かる。



【資料 1：21 世紀型能力】

また，高等学校学習指導要領解説においても,「健康・安全について総合的に理解することを通して，生徒が現在及び将来の生活において，健康・安全の課題に直面した場合に，科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い，適切に実践していくための思考力・判断力等の資質や能力の基礎を培い，実践力の育成を目指す」と示されている。

しかし，未成年者の飲酒を例に見てみると,【資料 2】のような結果が示されている。高等学校においては，飲酒が未成年者の身体に及ぼす健康影響について，保健体育科科目保健をはじめ，教育活動全体の中で学習し，生徒は，未成年者の飲酒は「法律で禁止されている」,「健康に害がある」ということを学んでいる。それにも関わらず，中高生の飲酒問題は後を絶たない。これは，マスメ



【資料 2：飲酒の状況】

ディアの影響であったり，周囲の人々からの誘いを断れなかったり，容易に酒類を購入できたりする環境（環境要因）等の中で，自分自身の毅然とした意志決定や正しい行動選択ができていないということが考えられる。飲酒に至った要因には，自分を大切に思う自尊感情が低い等の主体要因も大きく関係していると考えられるが，**【資料 2】**にある状況は，知識はあるが実践が伴っていないとも言えるのではないだろうか。

我が国における国民の健康づくり対策の「健康日本 21」においては，個人の主体的な健康増進を，社会環境が支援するというＷＨＯ（世界保健機関）のヘルスプロモーションの理念の基，様々な指針や目標が示されており，それらに基づいた様々な対策や活動がなされている。しかし，健康を保持増進させるには，社会環境からの影響もあるが，やはり個人の意志決定に委ねられているところが大きいと考える。

これらのことから，本研究において生徒の「健康・安全に関する実践力」を育てることは大変意義深いと考える。

２　これまでの指導の反省・生徒の実態から

私自身，これまで科目保健の学習指導の際には，生徒の興味や関心を引き出すために健康・安全の重要性を生徒が身近に感じられるような授業づくりを心がけ，学んだことを実生活に生かすことができる生徒を育成するために指導を行ってきた。しかし，感染症や交通安全等に関する学習の後にも，感染症にかかったり，交通事故に遭ったり，交通事故につながる行動をとったりする生徒がいた。これは，健康・安全に関する知識を習得していても，それが単なる知識で終わっており，学んだ知識を実生活において活用できていないからであると考えられる。

また，対象クラス（2 年生 1 学級）で行った事前調査で「高校入学以降，保健の授業で学んだことを，実生活で生かしている（生かした），実践している（実践した）ことがありますか」という質問に対して，「ある・少しある」と回答した生徒は 35.9％と，低い状況であった。これまで学習してきた内容で，特に 1 年次の内容のまとまりである「現代社会と健康」は，生活に身近な内容が多かったにも関わらず，実践が伴っていない，すなわち学んだことを実生活に生かすことができていない生徒が多いということが分かった。これは対象クラスだけに限られたことではないと推察する。

これらのことから，保健の学習において，健康・安全に関する実践力を育てることを研究の主題として設定した。

Ⅱ　主題・副主題の意味

１　主題の意味

（１）「健康・安全」について

健康・安全とは，心身が健やかで危険がないことである。

1946 年にＷＨＯ（世界保健機関）が提唱した健康の定義は，「健康とは，身体的・精神的および社会的に完全に良好な状態であって，疾病がないとか虚弱でないということではない」と示されている。しかし，現代における健康の価値観は多様化しており，文部科学省の「健康な生活を送るために（高校生用）」では，「病気や障害があってもそれらと上手に付き合って，生きがいをもって豊かな人生を送ることが大切であると考えられるようになってきています」と

示されている。これは，「生活の質」が「健康」に大きく関連していることを示している。

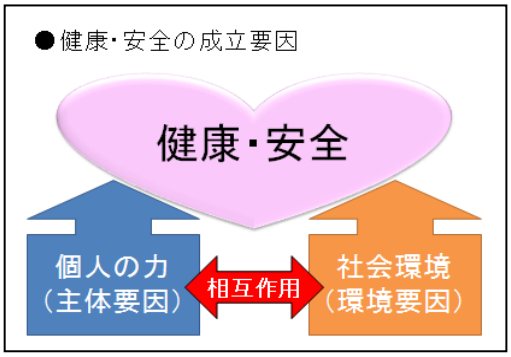
このことから，本研究においては「健康」を，病気や障害の有無といった身体面のみから捉えるのではなく，生きがいがある等の精神面も含めて「心身が健やかなこと」と捉える。

安全とは「安らかで危険のないこと」（広辞苑）と示されている。本研究においては，「安全」を，交通安全や傷害等に関わることだけでなく，疾病等のリスクを減らしたり，回避したりすることも含まれると考え「危険がないこと」と捉える。

ＷＨＯ（世界保健機関）が提唱したヘルスプロモーションの考え方においては，個人が健康を保持増進する資質や能力を高めることと，環境づくりの重要性が示されている。

また，「一目でわかるヘルスプロモーション - 理論と実践ガイドブック - 」（国立医療科学院）では，健康は個人の力（主体要因）と，個人を取り巻く社会環境（環境要因）の相互作用の上に成立すると示されている。

このことから，本研究においては，ヘルスプロモーションの考え方に従って【資料 3】のように，「健康・安全」は個人の力だけでは成り立たず，個人と，個人を取り巻く社会環境との相互作用により成り立つものと捉えることとする。



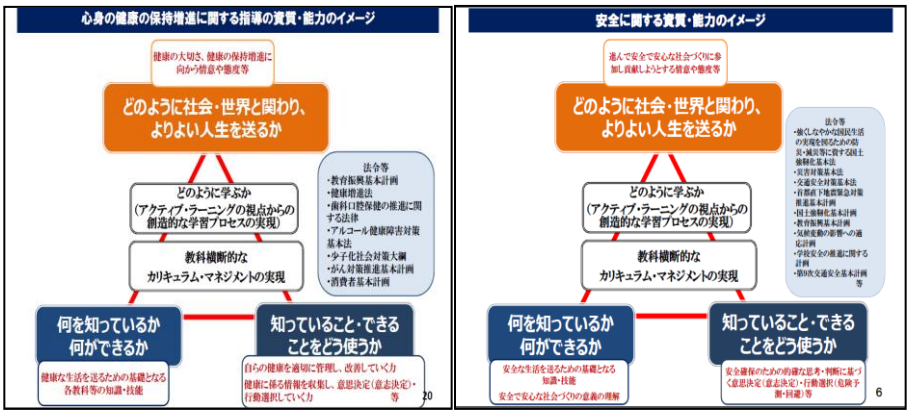
【資料 3：健康・安全の成立要因】

（２）「健康・安全に関する実践力」について

健康・安全に関する実践力とは，心身が健やかで危険がない状態を保持増進しながら生きていこうとする上で，直面する様々な場面において，学習した知識を実社会に生かすための資質や能力のことである。

高等学校学習指導要領解説保健体育編では，科目保健の目標の「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力」について，「個人生活及び社会生活における健康・安全について総合的に理解することで，現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に，的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い，自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎としての資質や能力」と示されている。

また，平成 28 年 1 月の時点で出された，教育課程部会総則・評価特別部会において，心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力のイメージ，及び安全に関する資質・能力のイメージ



【資料 4：心身の健康の保持増進及び安全に関する資質・能力のイメージ 】

が，**【資料 4】**のように「情意や態度等」「意志決定・行動選択していく力」「知識・技能・理解」の 3 点から整理された。

以下は，**【資料 4】**を整理したものである。

情意や態度等	**健康**	健康の大切さ，健康の保持増進に向かう情意や態度
	安全	進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献しようとする情意や態度等
意志決定・行動選択していく力	**健康**	自らの健康を適切に管理し，改善していく力 健康に係る情報を収集し，意志決定・行動選択していく力
	安全	安全確保のための的確な思考・判断に基づく意志決定・行動選択等
知識・技能・理解	**健康**	健康な生活を送るための基礎となる各教科等の知識・技能
	安全	安全な生活を送るための基礎となる知識・技能 安全で安心な社会づくりの意義の理解

これらを参考に，本研究における「健康・安全に関する実践力」を構成する資質や能力を次のように捉える。

ア　個人と社会の健康・安全の保持増進を願い，行動しようとする情意と態度
【情意・態度】

イ　個人と社会の健康・安全のためにとるべき行動が判断できる思考力・判断力
【思考力・判断力】

ウ　健康・安全を保持増進するために必要な知識の理解
【知識・理解】

（3）「健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒」について

健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒とは，「個人と社会の健康・安全の保持増進を願い，行動しようとする情意と態度」「個人と社会の健康・安全のためにとるべき行動が判断できる思考力・判断力」「健康・安全を保持増進するために必要な知識の理解」の 3 つの資質や能力を身に付けた生徒のことである。

これらの 3 つの資質や能力を身に付けることができた生徒を，健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒と捉える。

本研究おける「健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒」の姿を，「情意・態度」「思考力・判断力」「知識・理解」の 3 つの資質や能力から，以下のように捉える。

A　個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを実践しようとする生徒
【情意・態度】

B　健康・安全の保持増進のためにとるべき行動を，個人と社会の関わり合いの中で適切な判断をすることができる生徒　【思考力・判断力】

C　健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し，理解したことを発言したり，記述したりしている生徒　【知識・理解】

２　副主題の意味

（１）「ケーススタディー」について

ケーススタディーとは，事例や，設定された場面に対して，「自分ならどうする」という当事者意識をもたせ，課題を見つけたり，解決したり，意志決定や行動選択を行ったりする学習のことである。

西岡伸紀氏はケーススタディーを「日常生活で起こりやすい場面を設定し，生徒が登場人物のその時の心理状態，行動の結果，対処の仕方等を考えたり話し合ったりする学習である」としている。

本研究では，下記に示すケーススタディーⅠとケーススタディーⅡを学習のねらいに応じて教師が選択していく。（以下ケーススタディーを「ＣＳ」と示す。）

	ねらい	内容
ＣＳⅠ （自己の健康・安全を支えられる立場からの視点）	個人と社会との関わり合いの中で，自分の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について，当事者意識をもって自分の考えを明らかにできるようにする。	個人の生活の中での健康・安全に関する課題がある場面で，自分であればどのように行動するかについて考える活動
ＣＳⅡ （社会の健康・安全を支える立場からの視点）	個人と社会との関わり合いの中で，社会の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について，社会の一員としての自分の考えを明らかにできるようにする。	社会の健康・安全に関する課題がある場面で，自分であれば，どのように行動するかについて考える活動

（２）「ケーススタディーを位置付けた授業づくり」について

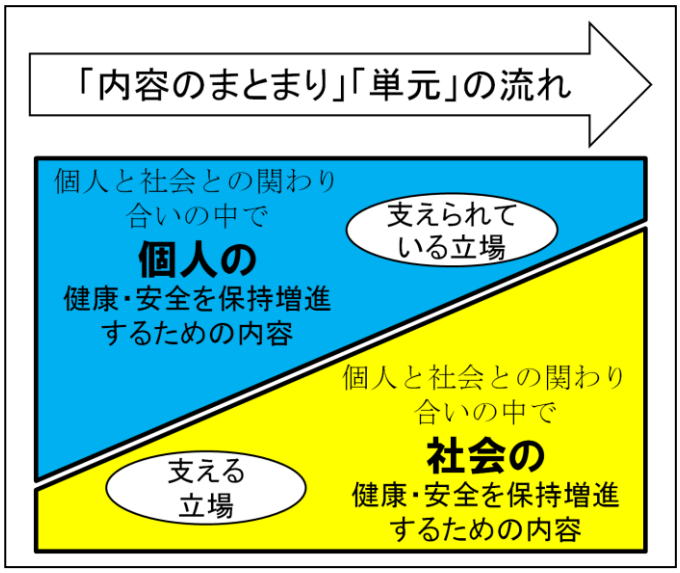
ケーススタディーを位置付けた授業づくりとは，当事者意識をもつことのできるケーススタディーを，他者との対話やグループワーク，課題学習等の学習活動に関連させる学習展開を，すべての単元で行うことである。

生徒は保健の学習を，小学校においては「身近な生活における健康・安全に関する内容を，より実践的に」，中学校においては「個人生活における健康・安全に関する内容を，より科学的に」，高等学校においては「個人及び社会生活の健康・安全に関する内容を，より総合的に」という系統性をもって学習してきている。

高等学校科目保健の内容のまとまりは，入学年次では「現代社会と健康」，その次の年次では「生涯を通じる健康」と「社会生活と健康」となっており，その内容も「個人と社会の関わり」が多く取り扱われている。内容のまとまりの流れを見ていくと，「個人と社会の関わり」については，「個人の健康・安全を支えられている立場」から，社会的資源を活用しながら「個人の健康・安全を保持増進するため」の内容と，「社会の健康・安全を支える立場」から，「健康・安全な社会づくりのために個人ができること（すべきこと）を実践するため」の内容に大別することができ，このことはさらに各単元の流れにも当てはまることが多いと考えた。**【資料 5】**

そこで本研究では，すべての単元で学習のねらいに応じて選択し，授業に取り入れるＣＳⅠ・ＣＳⅡのどちらにも「個人」と「社会」という内容を入れた。

今回検証の対象とした２年生の内容のまとまりである「生涯を通じる健康」は，１年生で学習した「現代社会と健康」よりも，生徒が身近に感じにくく，初めて耳にする言葉も多い。そのため指導する教師も難しさを感じており，教師主導型になりやすくなるという研究（佐々木 2010）もある。



【資料５：学習内容のイメージ】

これらのことから，当事者意識をもつことのできるケーススタディーと，他者との対話やグループワーク，課題学習等の学習活動に関連させる学習展開を，すべての単元に位置付けることで，生徒が学習する必要感を見出し，現在及び将来において学んだ知識を実社会で生かすことができると考える。

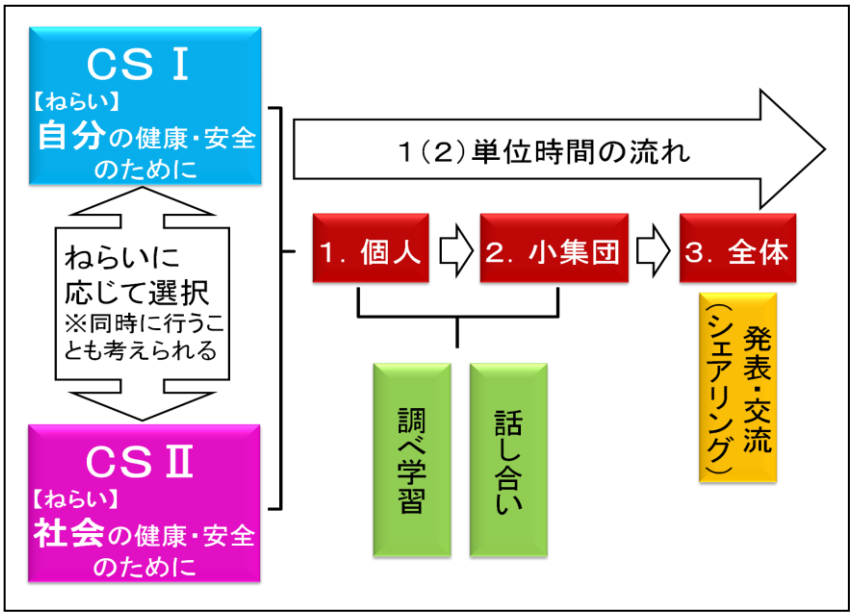
なお，検証授業の学習内容の進め方は，本校で科目保健の授業で使用している教科書（現代高等保健体育：大修館）の構成に沿って行う。学習指導要領で示される学習内容と，教科書の構成及び，本研究の対象とした検証授業範囲を以下の表に示した【資料６】。

学習指導要領			教科書の構成（大修館書店：現代高等保健体育）		
内容のまとまり	単元	小項目			
生涯を通じる健康	ア 生涯の各段階における健康	（ア） 思春期と健康	1	思春期と健康	
			2	性意識と性行動の選択	
		（イ） 結婚生活と健康	3	結婚生活と健康	
			4	妊娠・出産と健康	
			5	家族計画と人工妊娠中絶	
		（ウ） 加齢と健康	6	加齢と健康	
			7	高齢者のための社会的取り組み	
	イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	（ア） 我が国の保健・医療制度	8	保健制度とその活用	検証授業実施範囲
		（イ） 地域の保健・医療機関の活用	9	医療制度とその活用	
			10	医薬品と健康	
	ウ 様々な保健活動や対策		11	さまざまな保健活動や対策	

【資料６：教科書の構成】

授業の展開【資料 7】ではまず，教師が学習内容を吟味し，学習のねらいに応じてＣＳⅠ・ＣＳⅡのどちらを使用するかを検討し選択する。場合によっては同時に使うことも考えられる。

次に，選択したケーススタディーを基に「1. 個人」の活動を行い，個人の考えをつくる。その後，個人の考えを基に「2. 小集団」の活動を行う。ここでは，調べ学習や話し合い等の学習活動を取り入れ，個人の考えを他者と共有や比較をしたり，一つの考えにまとめたりさせる。それにより個人の考えが付加・修正・強化され，深まると考える。



【資料 7：授業の展開】

最後に，考えを深める最終段階で「3. 全体」での活動を行う。ここでは，「2. 小集団」の活動によってまとまった考えや深まった個人の考えを，プレゼン発表やポスターセッション等による交流活動等を通して共有を図るものとする。

Ⅲ　研究の目標

ケーススタディーを位置付けた授業づくりを行い，健康・安全に関する実践力を育てる保健学習指導の在り方を究明する。

Ⅳ　研究の仮説

保健体育科「科目保健」の授業づくりにおいて，以下の工夫を行うことで，生徒は健康・安全に関する実践力を身に付けることができるだろう。

1　ケーススタディーの位置付け方の工夫

2　ケーススタディーを活発にする教師の具体的支援の工夫

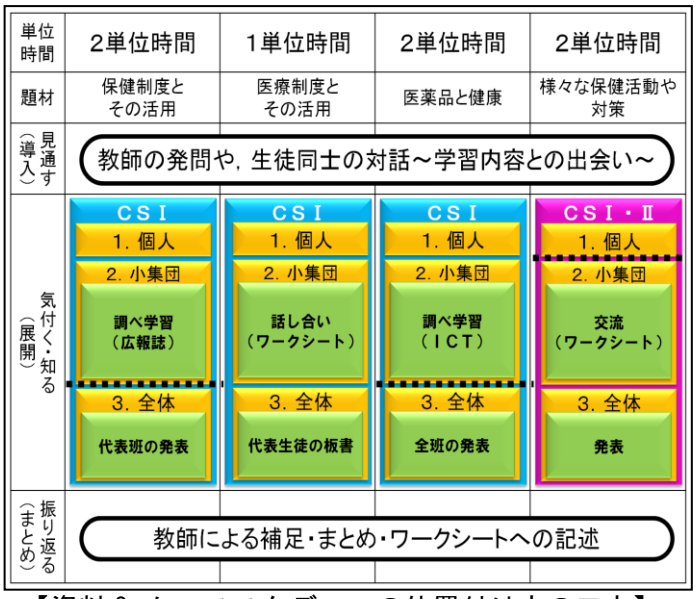
Ⅴ　研究の具体的構想

1　ケーススタディーの位置付け方の工夫

1 つの学習内容に対して，1 から 2 単位時間で授業をつくる。その中に，「見通す段階（導入）」「気付く・知る段階（展開）」「振り返る段階（まとめ）」の 3 つの段階を設定し授業を展開する【資料 8】。

「見通す段階（導入）」

この段階では，生徒が学習内容に出会う最初の段階であるため，学習の見通しをもたせると同時に，学ぶ必要感や期待感を引き出したい。そのために，生徒が考えやすく実生活に身近な事柄を取り上げたり，教師の発問やそれに伴う生徒同士の交流等をさせたりしながら学習内容に触れさせる。このことにより，ケーススタディーへの関心を引き出したり，当事者意識をもちやすくしたりすることができると考える。



【資料８：ケーススタディーの位置付け方の工夫】

「気付く・知る段階（展開）」

この段階では，ケーススタディーを基にして，個人の考えを深めるための活動に取り組む。

まず，与えられた場面設定に対して，個人の考えをつくるための「1．個人」の活動を行う。ここでは，既習の知識やこれまでの経験等から個人で考えをつくる。

次に，「2．小集団」の活動においては，調べ学習や話し合い等の学習活動を取り入れ，個人の考えを他者と共有したり，比較したり，一つの考えにまとめたりさせることで，個人の考えを深めていく。

最後に，「3．全体」の活動として，小集団での活動によってまとまった考えや，深まった個人の考えを，プレゼン発表やポスターセッション等の交流活動等を通して全体での共有を図る。

「振り返る段階（まとめ）」

この段階では，前段階における生徒の考えや意見を活用し，教師が補足したり，総括したりすることで授業を振り返る。そして最後に改めて生徒自身が授業を終えての個人の考えや意見をワークシートに記述することで整理をさせる。

２　ケーススタディーを活発にする教師の具体的支援の工夫

（１）ワークシートの活用

本研究では，学習内容や学習活動に対応したワークシートを教師が作成し，生徒に活用させる。知識を習得させる場面では，教師の説明やそれに用いるパワーポイント（以下ＰＰ）のスライドとリンクした形で，生徒が記入や確認，整理をしやすいように工夫する。また，授業展開の特に「気付く・知る段階」における小集団での活動や，全体での活動の場面では，個人の考えと他者の考えを書き残したり，比較したりしやすくなる形で，活動の過程や，生徒の考えが付加・修正・強化させていく過程が確認できるように工夫する。また，そうした他者の考え等がワークシートに残ることで，授業終末の「振り返る段階」おいて，改めて学習内容を振り返ったり，個人の考えをまとめたりする際に有効にはたらくと考える。

（２）ＩＣＴの活用

①電子黒板

本研究で活用した電子黒板は，本年度本校に導入されたものである【資料 9】。

活用の仕方としては，授業のはじめの「見通す段階」においては，生徒に画像を見せたり，発問や目標を提示したりすること等によって，生徒の学習内容への興味や関心，学ぶ意欲や必要感を引き出すために使用する。「気付く・知る段階」においては，知識を習得させる場面で教師がＰＰを使用しながら説明をおこなったり，生徒が自分やグループの成果物を実物投影機で画面に映し出し発表したりする場面で使用する。視覚的な訴えをしたり，成果物を全体で共有したり，活動の効率を図ったりすることに有効であると考えた。

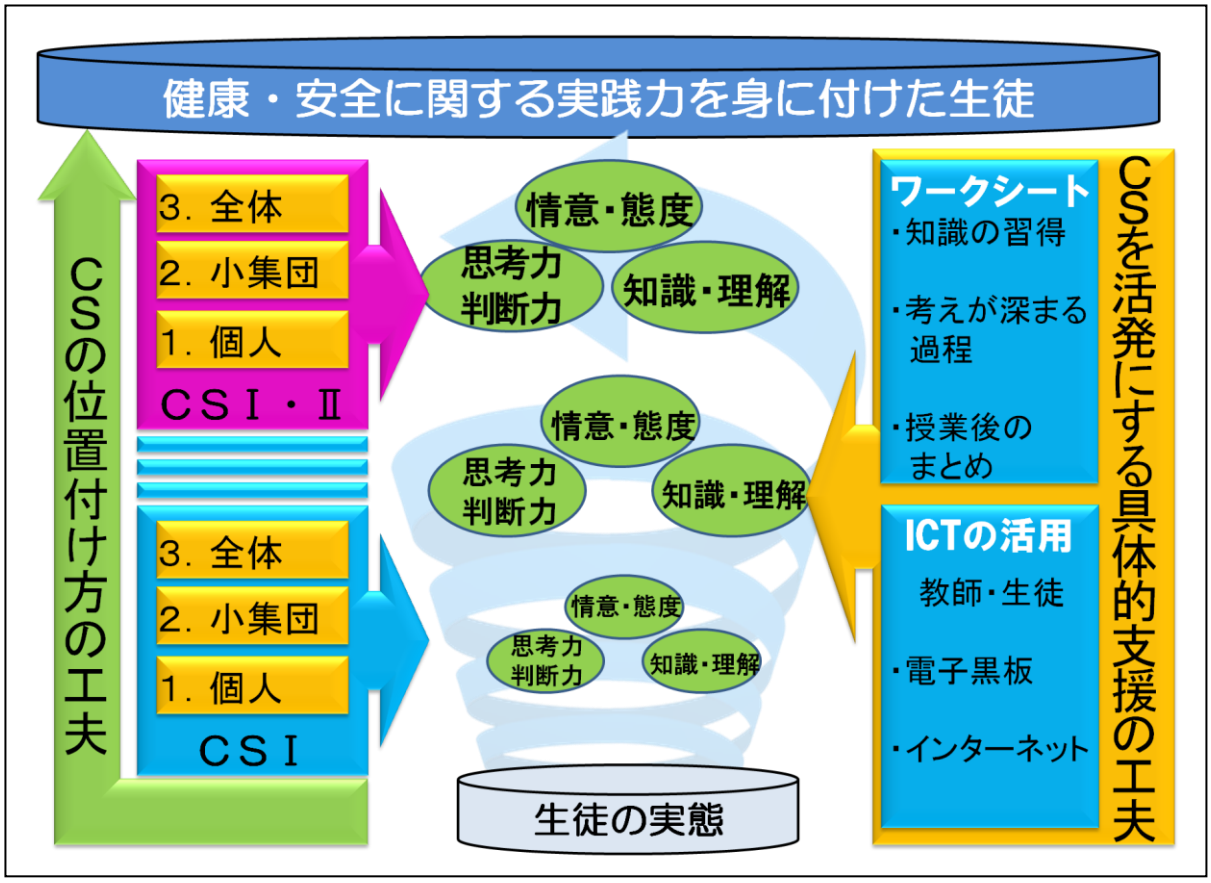
【資料 9：電子黒板】

②インターネット

本研究では，生徒が調べ学習でインターネットを使用したり，教師や生徒が電子黒板のインターネット接続機能を活用したりする場面をつくる【資料 10】。生徒たちにとって身近なものとなっているインターネットを使用することで，様々な健康・安全に関する情報に対して生徒の関心を引き出したり，最新の情報や身近な情報を提示したりすることができる。また，実生活でも活用することができるようになると考える。

【資料10:授業内でのインターネット使用の様子】

３　研究構想図



４　検証のねらいと方途

（１）ねらい

仮説に基づく検証授業において資料を収集し，結果を分析することによって仮説を検証する。

（２）対象

福岡県立筑紫中央高等学校　第２学年９組　39 名（男子 13 名，女子 26 名）

（３）期間

平成 28 年９月６日（火）～11 月１日（火）（全７時間）

生涯を通じる健康　「イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」

「ウ　様々な保健活動や対策」

（４）内容と方法

研究の仮説を検証するために，学習指導計画に従って「科目保健」の全７時間の授業と事前及び事後調査を実施し，データを収集する。

【検証の内容】

A　個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを実践しようとする生徒 【情意・態度】

B　健康・安全の保持増進のためにとるべき行動を，個人と社会の関わり合いの中で適切な判断をすることができる生徒 【思考力・判断力】

C　健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し，理解したことを発言したり，記述したりしている生徒 【知識・理解】

以上のことを検証するためのデータを収集する。

【方法】

○事前・事後の質問紙調査の比較

○ワークシート（授業の感想・まとめ）の記述内容分析

○学習過程評価票（「保健授業の教授 - 学習過程評価票」植田誠治　1998）

（５）仮説検証の方途

目指す 生徒の姿 【資質・能力】	授業	主となる 手だて	検証の方法	評価の観点
A 【情意・態度】	授業① 授業② 授業③ 授業④	ＣＳＩ ＣＳⅡ	事前・事後の質問紙調査の比較	・保健の授業で学んだことを生活の中で『生かしたい』という実践に関わる意識がどのように変化したか。 ・個人と社会の関わりへの意識がどのように変化したか。
			ワークシート（授業の感想）の記述内容分析	・個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを基にして具体的な行動や実践をしようとする態度がみられるか。
B 【思考力・判断力】	授業① 授業②	ＣＳＩ	ワークシート（授業のまとめ）の記述内容分析	・習得した知識を基に，現在及び将来の自分の生活に即して，適切な行動や，健康の保持増進のために様々なサービスを活用することの必要性について記述しているか。
C 【知識・理解】	授業① 授業② 授業③	ＣＳＩ	学習過程評価票	・学習に対する価値を見出しているか。
			ワークシート（授業のまとめ）の記述内容分析	・健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し理解したことを記述しているか。

Ⅵ　研究の実際と考察

実践　　福岡県立筑紫中央高等学校　第２学年９組

内容のまとまり　「生涯を通じる健康」

単　　元　　名　「イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」（5 時間）

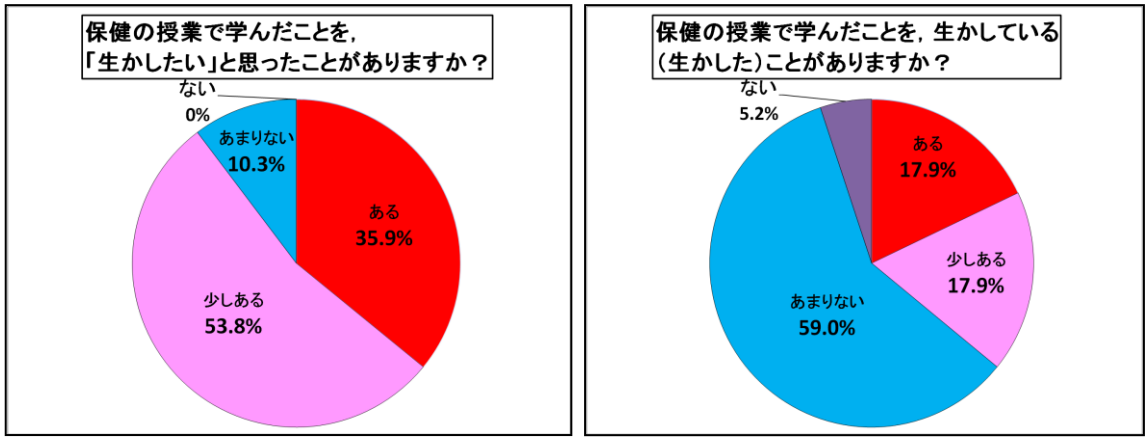
「ウ　様々な保健活動や対策」（2 時間）

１　事前調査

（１）保健の学習と実践に関わる調査

生徒が保健の学習で学んだことを，実生活において実践したり，生かしたりしたことがあるか等の調査を行った。

「保健の授業で学んだことを生活の中で『生かしたい』と思ったことはありますか」という問いに対して，【ある】と回答した生徒が 35.9%，【少しある】と回答した生徒が 53.8%，【あまりない】と回答した生徒が 10.3%であった。肯定的な回答が 89.7%であったが，「保健の授業で学んだことを生かしている（生かした）ことがありますか」の問いに対しては，【ある】と回答した生徒が 17.9%，【少しある】と回答した生徒が 17.9%，【あまりない】と回答した生徒が 59.0%，【ない】と回答した生徒が 5.2%であった。このことから，生徒の多くは保健の学習で学んだことを「生かしたい」という思いをもっているものの，実生活に生かしている生徒は少ないことが分かった【資料 11】。



【資料 11：保健の学習と実践に関わる意識調査結果】

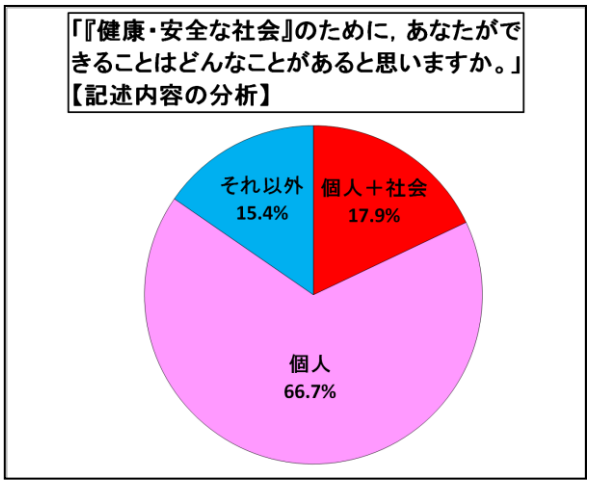
（２）個人と社会の関わりへの意識の調査

事前調査において，「『健康・安全な社会』のために，あなたができることはどんなことがあると思いますか」という質問に対して記述させ，記述の中に，個人に関わる内容と社会に関わる内容がどのくらいあるかを次のように分析した。

記述の内容	分析の基準	具体例
【個人】 個人に目を向けている。	それを行えば個人の健康･安全が保持増進されること。	手洗い，うがい，ルールを守る等
【個人＋社会】 個人と社会どちらにも目を向けている。	それを行えば，個人だけでなく，環境や他者の健康・安全も保持増進されること。	（上記に加えて）募金，献血，席を譲る等

記述の内容を分析した結果は，【個人と社会】に関する記述が 17.9%と低く，半数以上の 66.7%が【個人】に関する記述であった【資料 12】。

このことから，生徒の多くは「個人と社会が相互に影響を及ぼしており，個人の健康・安全の保持増進のためには，社会の健康・安全も必要であり，その社会をつくり上げる」という意識が低いと考えた。



【資料 12：個人と社会の関わりへの意識調査結果】

２　研究の実際

授業①　保健制度とその活用（２時間）

（１）単元名・小項目

イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

（ア）我が国の保健・医療制度　（イ）地域の保健・医療機関の活用

（２）選択するＣＳのねらいと内容と手だて

本授業ではＣＳＩを選択する。

＜ねらい＞

・現在及び将来の自分と，身近にある保健に関する情報やサービスとの関わりの中で，自分の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について，考えを明らかにできるようにする。

＜内容＞

・現在及び将来の様々な年代における生活の中で，健康・安全に関する課題に直面した場合に，自分の健康・安全を保持増進させるためにはどのような保健に関する情報やサービスを活用していくかを考える活動

＜手だて＞

・生徒の生活圏の「広報誌」の利用

・小集団での調べ学習

・電子黒板の活用（生徒発表時）

・ワークシートの活用【資料 13（P16)】

（３）授業展開

【１時間目】

見通す段階（導入）

「健康に過ごすために心がけていることはあるかな」と全体に問いかけ，周囲の仲間との対話を行わせた。**『運動やろ』『間食をしない』『睡眠！』**等の意見が出ていた。その後，対話の中で出てきた具体的な健康習慣や，具体的実践例，考え等を数名の生徒に発表させ，全体で共有した。

「自分だけの力で健康を保持増進していくことはできるかな」と問いかけ，「できると思う」か，「できないと思う」かのどちらかに挙手をさせたところ，全員が**『自分だけの力で健康を**

保持増進していくことはできない』と感じていた。

「私たちが健康でいるために，周囲（学校，地域，社会）がしてくれていることにはどんなことがあるだろう。」と問いかけ，「保健（病気の予防や健康の保持増進）」について個人で考えるよう指示し，ワークシートに記入させた【資料 13－①(P16)】。これまでの経験や，既習の知識で様々な具体的な項目を挙げている生徒も多かった。

そこで，本時の目標**保健制度と様々な保健活動について知り，状況に合った保健に関する情報やサービスを活用してみよう！**を提示した。

次に，知識を習得させるために，我が国の保健行政，保健所・保健センターと市町村の役割について電子黒板でＰＰを使用しながら説明した。生徒はワークシートの必要箇所にしっかりと記入しながら説明を聞くことができていた【資料 13－②(P16)】。

そして，**「様々な保健に関するサービスを受けるには，具体的にどうしたら良いのだろうか。どのようにすれば情報が手に入るだろうか」**という発問を行い，周囲の生徒と意見交換をさせた後，数名の生徒に発表させた。**『インターネット』『スマホ』『テレビ』『新聞』**等の意見が多かった。

本校の校区内 7 市町村の最新号の広報誌の表紙を電子黒板で示した【資料 14】。数名の生徒は周囲の友人と顔を見合わせ**『見たことある！』『家にあった気がする』**等と話をしていたので，**「見たことがある人！」**と尋ね，挙手をさせると 25 人の生徒が挙手をした。**「では，中身を読んだことがある人！」**と尋ねると，3 名の生徒しか挙手をしなかった。挙手をした生徒に**「どんな内容を読んだの？」**と尋ねると**『自分の中学校の部活の成績が載っていることを聞いたので読んだことがある』『地域のお祭りの詳細を見た』**と答えたが，保健に関する内容は出てこなかった。

そこで，校区内 7 市町村から出されている広報誌を，4～5 名の各グループに 1 セット配布した。すると生徒は自分の住んでいる地域の広報誌を開き中身をそれぞれで見ていた【資料 15 】。

【資料 14：校区内市町村の広報紙の表紙】

【資料 15：広報紙に興味津々の生徒】

気付く・知る段階（展開）Ⅰ

《ＣＳＩ》

市町村から出されている「広報」から，様々な保健に関する情報やサービスを探してみよう。
ケース①「自分たちが今すぐ活用できる情報やサービス」
ケースＡ「30 歳のあなたは今，妊娠（育児）中。初めての妊娠（育児）不安だなぁ…」
ケースＢ「40 歳のあなたは今，仕事が忙しくて運動不足気味…最近お腹回りにお肉が…」
ケースＣ「70 歳のあなたは今，仕事も退職し，時間の余裕はある。最近は家の中でテレビを見るばかり…運動しなきゃいけないのは分かるけど…食生活もこのままでいいのかな…」
※医療に関する情報もあるため，ここでは「予防や健康増進」を中心に！

〖１．個人〗

7 つの市町村から出されている広報紙の中から，ケース①「自分たちが今すぐ活用できる情報やサービス」を個人で調べさせた。

〖２．小集団〗

4～5 人組のグループを作らせ，ケースＡ～Ｃの人物のどれか一つ（教師指定：グループ共通）に合うと思う情報やサービスを調べさせ，ワークシートに記入させた**【資料 13－③④(P16)】**。活動中にはそれぞれのグループに割り当てられた年代（Ａ～Ｃ）に人物設定や生活背景を考える様子や，様々な保健に関する情報やサービス，取組が行われていることに初めて気付いた生徒が多くいた。**『これ旦那さんも一緒に参加できるんだって』『無料検診とかあるんやね』『これ家の近くやん！』『栄養教室とか行ってみたくない？』**等の意見が多く出ていた**【資料 16】**。

ケースＢ（40 歳になりきる）を考えるグループでは，運動の重要性についての情報を見つけた生徒と，中高年のための生活習慣病予防のための料理教室のサービスを見つけた生徒が，「生活習慣病予防のためには，運動することと食生活の改善とどちらが効果的か」といった話し合いをし，自己の考えを活発に出し合う姿が見られた。

【資料 16：「2. 小集団」グループでの調べ学習の様子】

【２時間目】

気付く・知る段階（展開）Ⅱ

前回のケーススタディーやグループでの調べ学習を振り返らせ，発表に向けてワークシート**【資料 13－③④(P16)】**にまとめた内容の，最終確認を行わせた。

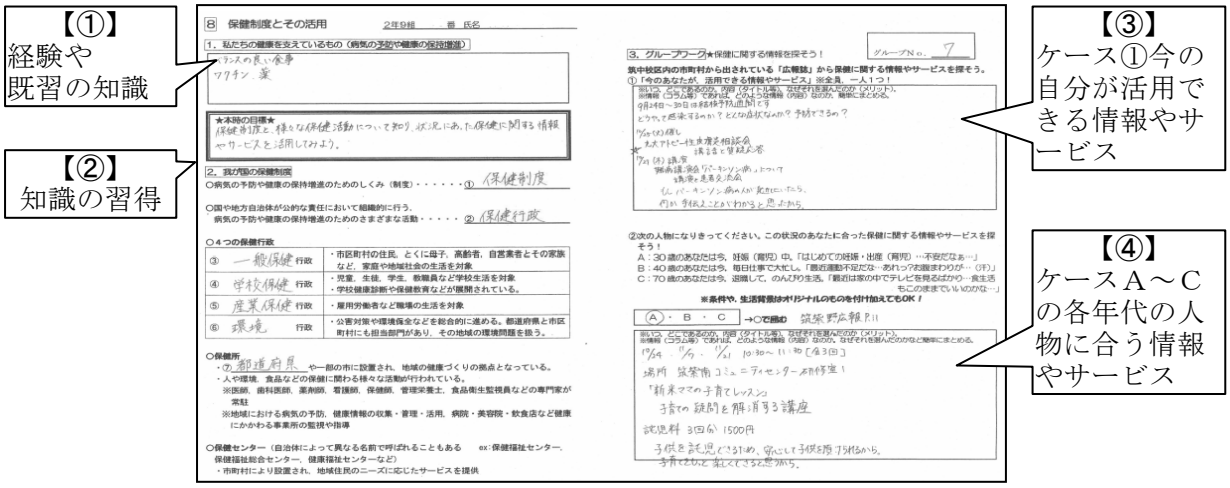
〖３．全体〗

各グループで調べた，ケースＡ～Ｃに人物に合う保健サービスについて，全体で共有するために発表をさせた。発表はグループ代表者のワークシートを，実物投影機で電子黒板に映し出して行った**【資料 17】**。発表を聞く側の生徒は，手元の広報から発表者が紹介した保健サービスを探したり，メモを取ったりする等して真剣に発表を聞いていた。

【資料 17：発表の様子】

振り返る段階（まとめ）

保健行政，保健所，保健センター，保健に関する情報やサービス，それらの活用について振り返り，各年代やその人の健康課題に応じた様々な保健サービスが身近なところから提供されていること，それらを適切に活用していくことが重要であること等について確認し，ワークシートの裏面に授業後の感想を記入させた。



【資料 13：授業①で活用したワークシート】

授業②　医療制度とその活用（２時間）

（１）単元名・小項目

イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

（ア）我が国の保健・医療制度　（イ）地域の保健・医療機関の活用

（２）選択するＣＳのねらいと内容と手だて

本授業ではＣＳＩを選択する。

＜ねらい＞

・現在及び将来の自分と，身近にある医療機関との関わりの中で，自分の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について，考えを明らかにできるようにする。

＜内容＞

・現在及び近い将来における生活の中で，病気になってしまう等の課題に直面した場合に，自分の健康･安全を保持増進させるためにはどのような医療機関を活用していくかを考える活動

＜手だて＞

・ワークシートの活用【資料 18(P18)】

・小集団での話し合い活動

（３）授業展開

見通す段階（導入）

「これまで，病院に行ったことがない人はいますか」という問いに対しては，当てはまる生徒は誰もいなかった。**「一番最近病院に行った時のことを思い出してください。そしてなぜその病院に行ったのか，その病院を選択した理由を考えてみてください」**と発問した後に，数名

の生徒に尋ねると，**『風邪を引いたので病院に行きました。（選択理由は…）家から近いので』『怪我をした時に行きました。（選択理由は…）過去に何度か行ったことがあるので』**と答えた。**「では，【近い】【行ったことがある】以外の選択理由がある人はいませんか」**と尋ねると，ある生徒が**『親が連れて行ってくれた』**と発言した。その後，本時の目標**医療機関の適切な活用について考えよう！**を提示した。

気付く・知る段階（展開）

《ＣＳＩ》

〇大学１年生の５月。親元を離れて一人暮らし。数日前から胃痛が…。実家から持ってきた市販の胃薬は飲みましたが，なかなかよくなりません。「なんでだろう…なんでよくならないんだろう…今までこんなことなかったのに…不安だな…これは病院に行った方がいいかも…。」

【自分ならどちらを選ぶ！？】

そこであなたは，次の二つの医療機関のどちらかに行くことを決めました。これまでの経験や聞いたこと，イメージ等から，選んだ病院に行く理由を書こう！

【大きな大学病院】 （診療科目：多数）	【小さなクリニック】 （診療科目：内科・胃腸内科・消化器内科）

〖１．個人〗

「では，次の状況だったら…どっちの医療機関に行くかな？」と発問しＣＳＩを提示した。

個人で考えさせワークシート【資料 18－①(P18)】に記入させた。生徒が選択した医療機関の内訳と選択理由を次に示す【資料 19】。

大きな大学病院を選んだ生徒：17 名	小さなクリニックを選んだ生徒：22 名
【選択理由】 ・ハイテクだから ・最新そうだから ・細かい検査がありそうで安心だから ・胃だけでなく他の部位も診察してもらえそうだから ・医療機器がしっかりしていそうだから ・過去の多くのデータ等の情報が豊富そうだから ・診療科目が多いから ・手術してもらえるから	【選択理由】 ・専門的に見てもらえるから ・安い，安そうだから ・待ち時間が少ないから ・診療科目に「胃腸内科」とあるから ・通いやすいから，近所にあるから ・大きな病院を紹介してくれるから ・親切，優しい，感じが良いイメージがあるから ・大きな病院に行くべきなのかが分かるから ・気軽に行ける，入りやすいから ・そこまで大きな病気だと思わないから ・また胃痛がしたら通いやすいから →自分のことを少し分かってくれているから

【資料 19：生徒の医療機関選択の内訳と選択理由】

医療機関の種類や医療保険についての知識を習得させるために，ＰＰを使用しながら説明した。生徒はワークシート【資料 18－②(P18)】にしっかりと記入しながら説明を聞くことができていた。※総合病院や大学病院，診療所の機能や連携について，ここではあえて触れないようにした。

〖２．小集団〗

個人で選択した医療機関が同じ者同士の席が近くになるよう座席を移動し，医療機関の選択について小集団で話し合う活動を行った。既存の知識や経験を基に，様々な視点からの意見が挙がっており，自分にはなかった他者の意見をワークシート【資料 18－③(P18)】に書き込み

ながら活発な話し合いが行われていた【資料20】。

【大きな大学病院を選択した生徒たちの声】

『検査する機械も最新のものがありそうだから，原因がはっきり分かりそうじゃない？』『やっぱり医療費が高いのかな…大学生ならお金がなさそうだね…』『いろんな診療科目があるから便利だよね』『大きい方が信用できそうじゃない？』等

【資料 20：活動の様子】

【小さなクリニックを選択した生徒たちの声】

『なんとなく親身になってくれそうだよね』『待ち時間が少なそうじゃない？』『大きい病院を紹介してくれたことがあるよ！』『身近な方がかかりつけ医になりそうじゃない？』『私は同じ小児科に今でも行くよ！』等

〖３．全体〗

小集団での話し合いによって出てきた様々な医療機関の選択理由を黒板に板書させた【資料 21】。他方の医療機関を選んだ理由についてもワークシート【資料 18－④】に記入させることで全体での意見の共有を図った。

【資料 21：医療機関の選択理由を板書する生徒】

振り返る段階（まとめ）

その後，生徒が書いた板書を活用し，教師が整理をしながら医療機関の機能的な役割や，かかりつけ医，インフォームドコンセントやセカンドオピニオン等の知識を習得させるための説明をした。最後に「今後あなたが医療機関を選択する時には，どんなことに気を付けていきたいか」について個人でワークシート【資料 18－⑤】に記述させた。

9　医療制度とその活用　　2年9組　番　氏名

1．考えてみよう

○大学１年生の５月。統元を離れて一人暮らし。数日前から胃痛が…。実家から持ってきた市販の胃薬は飲みましたが，なかなかよくなりません。「なんでだろ…なんでよくなんないんだろ…今までこんなことなかったのに…不安だな…これは病院に行った方がいいかも…。」

【自分ならどちらを選ぶ！？】

そこであなたは，次の二つの病院のどちらかに行くことを決めました。これまでの経験や聞いたこと，イメージなどから，選んだ病院に行く理由を書こう！

【大きな大学病院】（診療科目：多数）	【小さなクリニック】（診療科目：内科・胃腸内科・消化器内科）
【選んだ理由】	【選んだ理由】

★本時の目標★　医療機関の適切な活用について考えよう。

2．医療機関と医療の保険

○病床（ベット）が（ 20 ）床以上ある…（病院　）

○病床（ベット）が（ 19 ）床以下，あるいは病床をもたない…（診療所　）

○診察・検査・治療などの医療に対して支払われる費用を（★ 医療費　）という。

○あらかじめお金（保険料　）を皆が出しあって蓄えておいた財源から（★ 医療費　）の一部を医療機関に支払う（ 医療保険　）のしくみがある。

○このしくみによって…

怪我をして病院に行きました。松枝でした。鎮痛剤と塗り薬を出してもらいました（処方箋）。病院の会計では 3,000 円を支払いました。その後薬局で処方箋と引き換えに薬を受け取り，そこでは 3,000 円を支払いました。

（★ 医療費　　）は（ 20,000 ）円ですが，（ 国民皆保険制度　）（1961 年）のおかげで，自己負担（ 3 ）割の，合計 6,000 円で済みました。

※自己負担分の割合は，年齢や所得によって決められている。（地方自治体によっては，自己負担分への補助があるところも。）

○我が国の医療費は年々増えている。（背景：医療の進歩，高齢化，疾病構造の変化など）

●我が国の医療保険のしくみを持続可能にするためにも，医療や医療費などにも関心を持とう！

3．医療機関の活用

★①転勤！！（大きい大学病院を選んだ人は各列前方へ）※電子黒板参照

★②同じ病院を選んだ人（周囲の人）と選んだ理由を共有し，良い理由や，「なるほど！確かに！」と思う理由があれば下の欄に書き加えよう！（席は移動してもOK）

※周りの人から聞いてどんどん書き加えよう！前に上がっていた理由がかぶってもOK！

○（大きな大学病院）

○（小さなクリニック）

★③黒板をみて，他方の病院を選んだ人達の意見を下の欄に書き加えよう！

○（大きな大学病院）

○（小さなクリニック）

4．本時のまとめ

★キーワード★

・医療費の保障　・自己の健康上の課題の的確な把握　・医療機関の適切な活用

・かかりつけ医　・インフォームドコンセント（説明同意）　・セカンドオピニオン（第二の意見）

★今後あなたが医療機関を選択する時には，どんなことに気をつけていきたいか。

自分の話をしっかりと聞いてくれる「かかりつけ医」をつくって，今でも不安なことや悩みは相談をできるようにしたいと思います。そして，自分の信頼できる「かかりつけ医」をつくって，安心して将来生活できるようにして，心も身体も健康な状態で生活できる環境を自分でつくっていこうと思います!!

【①】経験や既習の知識から選択した理由

【②】知識の習得

【③】同じ医療機関を選択した者との意見交換により付加

【④】他方の医療機関を選択した者の意見

【⑤】本時のまとめ「今後あなたが療機関を選択する時には，どんなことに気を付けていきたいか。」

【資料 18：授業②で活用したワークシート】

授業③　医薬品と健康（２時間）

（１）単元名・小項目

イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

（イ）地域の保健・医療機関の活用

（２）選択するＣＳのねらいと内容と手だて

本授業ではＣＳＩを選択する。

＜ねらい＞

・現在及び将来の自分と医薬品との関わりの中で，自分の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について考えを明らかにできるようにする。

＜内容＞

・現在及び将来における生活の中で医薬品を購入・服用する場合に，自分の健康・安全を保持増進させるためにはどのような医薬品を使用していくかを考える活動

＜手だて＞

・ワークシートの活用【資料 22(P21)】

・個人及び小集団での調べ学習

・パソコンやインターネット等のＩＣＴ活用（調べ学習及び発表）

（３）授業展開

【１時間目】

見通す段階（導入）

（授業の１週間前）

グループ分け及びグループで調べる項目を選択させた。**「次回の授業までに個人でその項目について情報を収集し，次回の授業で個人が収集した情報をもち寄り，グループで発表用資料を作成する」**という授業の見通しを話し，個人で情報収集メモ【資料 23(P20)】に情報を収集をしておくように指示をした。

まず本時の目標**医薬品を売る立場になり，購入者に分かりやすく適切な説明をするために，グループで協力して発表用資料を完成させよう**を提示し，グループでの調べ学習について説明をした。

【発表用資料作成について】

★個人で調べてきた情報を班で共有し，まとめてＡ4 用紙にわかりやすくまとめる。（複数枚ＯＫ）

→説明文はすべて書く必要はない（要約して表記，発表の際に口頭で詳しく説明）が，大事なキーワードはしっかりと表記する。

★教科書の内容のみは不可。

【発表について】

★発表は最低 2 名以上。（全員で分担してもよい。）

★発表時間は 2 分以上 4 分以内。

★電子黒板（書画カメラ）を使用して発表。※発表用資料が複数枚の班は班員で資料の交換。

【その他】

★要望，提案，質問は教師へ相談。

例:発表時に画像や動画を映し出したい。パワーポイントを使いたい。

→教師はソフトの準備等，できる限りの協力をする。

気付く・知る段階（展開）Ⅰ

《ＣＳＩ》

医薬品を「販売する立場」に立って，購入者に適切な説明をしよう

あなたはドラッグストアの店員です。医薬品を購入しに来たお客さんは，医薬品について様々な疑問を持っているようです。お客さんに「そうだったのね！ありがとう！」と言って帰ってもらえるように適切な説明をしてあげましょう。

★調べる（お客さんに教える）項目

項目	お客さんの声
①医薬品の種類について	・医薬品ってどんな種類があるんですか？ ・お医者さんから処方されたものと，ここで買うのは何が違うんですか？など
②医薬品の安全性について	・医薬品の安全って…どうなんですか？　など
③医薬品販売の規制について	・医薬品の販売には何か規制などがあるんですか？　など
④医薬品の使用法について	・医薬品の使用で気を付けることは何ですか？　など
⑤副作用について	・副作用ってなんですか？なんで出るんですか？それで悪くなったり被害を受けたりしたらどうしたらいいんですか？　など
⑥日本における薬害について	・日本で起こった薬害問題ってどんなものがあるんですか？　など

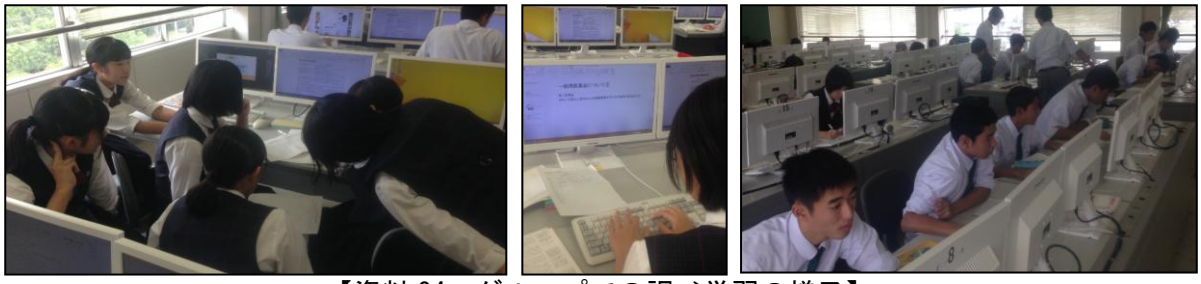
〖１．個人〗

事前に個人で集めてきた情報について，情報収集メモ【資料 23】を基にグループのメンバーに紹介をし，個人の情報をグループで共有させた。

【資料 23：情報収集メモ】

〖２．小集団〗

グループでの活動中【資料 24】は，積極的に個人の考えを交換したり，新たな疑問をインターネットで検索したりしていた。**『ジェネリック医薬品って薬局で前に言われたけど，こういう意味だったんだ』『インターネットで購入できるってちょっと心配やない？』『発表は役割分担してやろうよ』『先生，パワーポイントでやってみてもいいですか？』『クイズ形式で発表したらどうかな』**等，様々な声が上がっていた。



【資料 24：グループでの調べ学習の様子】

活動に当てられる時間が約 40 分と限りがあり，その中で発表用資料の作成と発表の内容まで決めなくてはならなかったため，数班は時間内にまとまらなかったが，本時が昼休み前の 4 限目ということもあり，生徒の方から**『このまま残って昼休みに少しやってもいいですか？』**と申し出る班も見られた。

【２時間目】

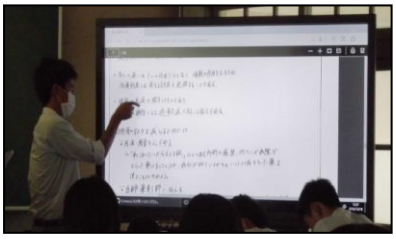
※授業前準備として，全グループの発表用資料をすべて回収し，全生徒分，資料として印刷した。

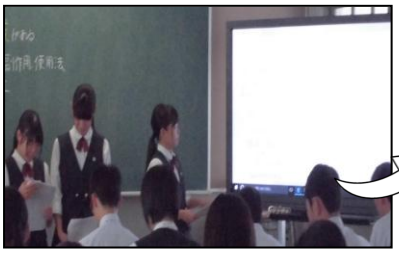
目標**医薬品について他のグループから学び，まとめよう！**を提示し，発表の仕方や，聞き方について説明した。

気付く・知る段階（展開）Ⅱ

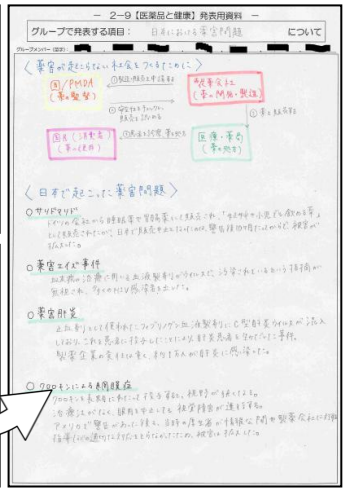
〖３．全体〗

発表【資料 25】するグループは，役割を決めたり，電子黒板の拡大や縮小の機能を使ったり，ＰＰ【資料 26】を使用したりしながら発表を行っていた。聞き手の生徒も，電子黒板や手持ちの資料【資料 27】を見たり，ワークシート【資料 22－①】にメモを懸命に取ったりしながら発表を聞いていた。



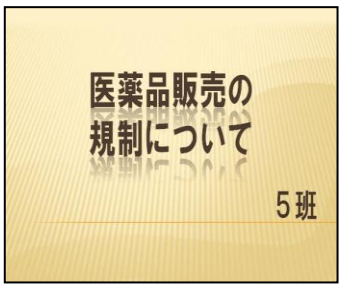


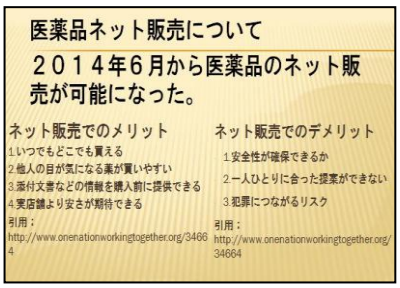
【資料 25：発表の様子】



【資料 27：発表用資料】

各グループ（項目）が終わった後に，聞き手の生徒に**「何か質問はありませんか」**という問いを行ったが，質問をする生徒がいなかったため，教師から補足につながる質問を行った。その後，電子黒板を使用し，補足の説明を行った。



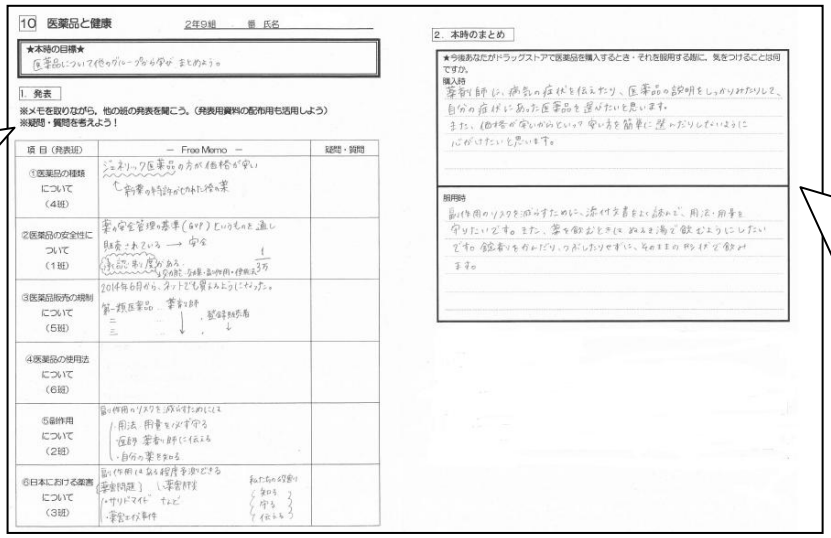


【資料 26：発表用資料（生徒作成ＰＰ）】

振り返る段階（まとめ）

「今後あなたがドラッグストアで医薬品を①購入する時，②それを服用する時に気を付けることはなんですか」という設問について個人でワークシートに記述させた【資料 22－②】。

【①】
他の班の発表を聞きながらメモを取る



【②】
「今後あなたがドラッグストアで医薬品を①購入する時，②それを服用する時に気を付けること」についての記述

【資料 22：授業③で活用したワークシート】

授業④　さまざまな保健活動や対策（２時間）

（１）単元名

ウ　様々な保健活動や対策

（２）選択するＣＳのねらいと内容と手だて

本授業ではＣＳⅠとＣＳⅡのどちらも選択する。

＜ねらい＞

・現在及び将来の自分と，社会との関わりの中で，自分と社会の健康・安全の保持増進のためにとるべき行動について，社会の一員としての考えを明らかにできるようにする。

＜内容＞

・自分や社会の健康・安全に関する課題がある場面で，自分や社会のためにどのように行動するかについて考える活動

＜手だて＞

・ワークシートの活用　　アクション宣言用紙【資料 28(P24)】
　　ワークシート【資料 29：(P25)】

・個人及び小集団での調べ学習

・パソコンやインターネット等のＩＣＴ活用（調べ学習及び発表）

（３）授業展開

【１時間目】

見通す段階（導入）

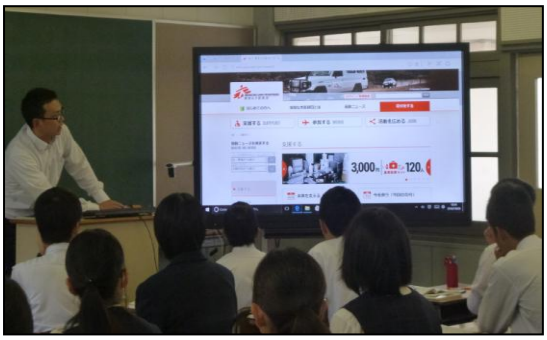
前回の復習に合わせて，これまで学習してきた内容のまとまり「生涯を通じる健康」を振り返った。

〇私たちは自分だけの力や努力で健康でい続けられるのか…。
〇私たちの健康増進を支えてくれる様々な制度や対策・活動があった。（医療制度，保健制度…）
〇私たち一人ひとりの健康課題は，【ライフステージ】やライフスタイルによって異なる。そのため，それぞれの健康課題に対応する，各種の【保健活動】や対策がおこなわれている。

「これまで学んできた様々な保健活動は，公の立場のものが多かったですね。実は他にも多くの保健活動が行われています。民間機関や，国際機関について今日は見ていきましょう」と問いかけ，本時の目標**人々を支える，様々な保健活動について知ろう**を提示した。

気付く・知る段階（展開）Ⅰ

保健活動を行っている民間団体や国際機関等についてＰＰを使用しながら説明し，どのような保健に関する活動が行われているか等の知識を習得させた。その際，電子黒板のインターネット接続機能を使い，実際の活動団体のＨＰにその場でアクセスし，生徒がそれらの活動を身近に感じられるよう工夫した【資料 30】。



【資料 30：電子黒板の活用】

それらの活動を支援（募金やＳＮＳによる情報シェア等）することができるということを初めて知った生徒も多く，皆真剣に画面を見ていた。

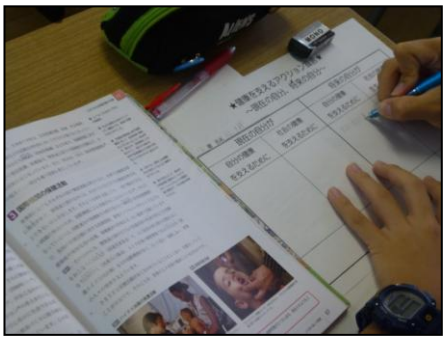
その後，**「こういう様々な保健活動って誰がやっているのかな」「自分だけが，日本だけが健康だったらそれでいいのかな」「すべての人の健康を『支える側』として，今の自分にできること，将来，大人になり社会にでてからできることは何かないかな」**と問いかけ，考えさせた後に次のようなケーススタディーを行った。

《ＣＳⅠ，ＣＳⅡ》

★健康を支えるアクション宣言★　～現在の自分，将来の自分～
すべての人の健康や社会の健康を「支える側」として，今の自分にできること，将来の自分ができることは何かないかな。

〖１．個人〗

「アクション宣言」と題し，具体的に自分が取り組めること，取り組んでみたいことを考えさせ，アクション宣言用紙【資料 28－①(P24)】に記入させた【資料 31】。設定としては「①現在の自分が，現在の自分の健康を支える」「②現在の自分が社会の健康を支える」「③将来の自分が将来の自分の健康を支える」「④将来の自分が社会の健康を支える」の４つを設定した。


【資料 31：アクション宣言の記入】

これまで学んできたことを参考に考えさせたが，「③④将来の自分が…」を考えるのが難しいと感じた生徒もいた。机間指導しながら助言を行い，想像させ，視野を広くもって考えるよう促した。**「たとえば４０歳の自分がどういう状況か想像してごらん？」「今はできなくても，将来できることってあるよね？」**

次回は，そのアクション宣言用紙【資料 28(P24)】をつかって交流活動を行うことを説明して終えた。

【２時間目】

気付く・知る段階（展開）Ⅱ

本時の活動を説明し，目標の**仲間と★健康を支えるアクション宣言★を比較し，生涯を通じて健康に過ごすために必要なことについてまとめよう。**を提示した。

〖２．小集団〗

交流活動【資料 32】で，仲間のアクション宣言用紙【資料 28(P24)】を見て回り，共感するものや，自分にもできそうなもの，自分もやってみたいもの等について，ワークシート【資料 29－①(P25)】にメモを取らせた。また，アクション宣言用紙の下部には「いいね！」「同じ！」欄【資料 28－②(P24)】を設け，見た人が正の字を入れていくようにした。

【資料 32：仲間のアクション宣言を見て回る様子】

〖３．全体〗

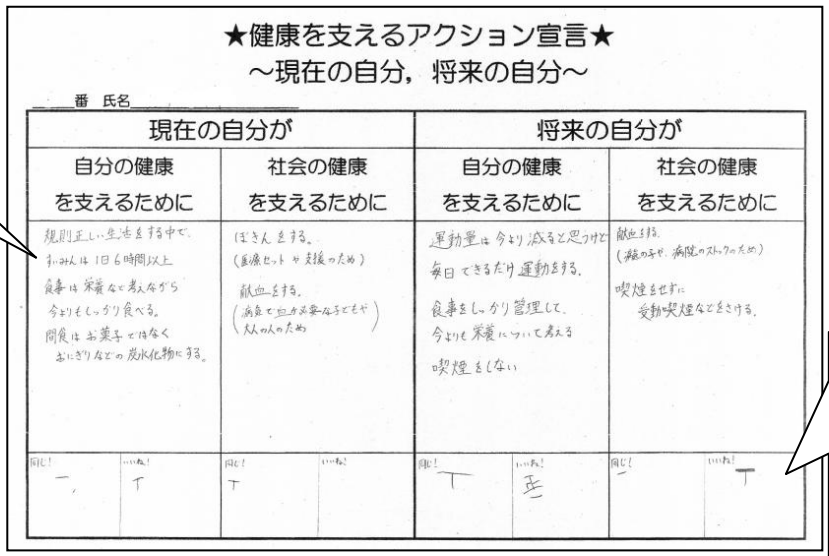
様々なアクション宣言を全体で共有するため，数名の生徒におすすめのアクション宣言を紹介してもらい，質問や解説をした【資料 33】。

【資料 33：仲間のアクション宣言を全体に紹介する様子】

振り返る段階（まとめ）

まとめとして，これまで学んできたことや，仲間のアクション宣言を見て，ワークシート【資料 29－②(P25)】に「生涯を通じて健康に過ごすために必要なこと」を記述させた。

生徒の記述からは，自分の健康を保持増進させるための具体的な方法に加えて，他者や社会のためにできることを実践していきたいという記述が多く見られた。また，記入中には，他者のアクション宣言を見て回った際にとったメモを見直しながら記入している生徒も多くいた。



★健康を支えるアクション宣言★
～現在の自分，将来の自分～

＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

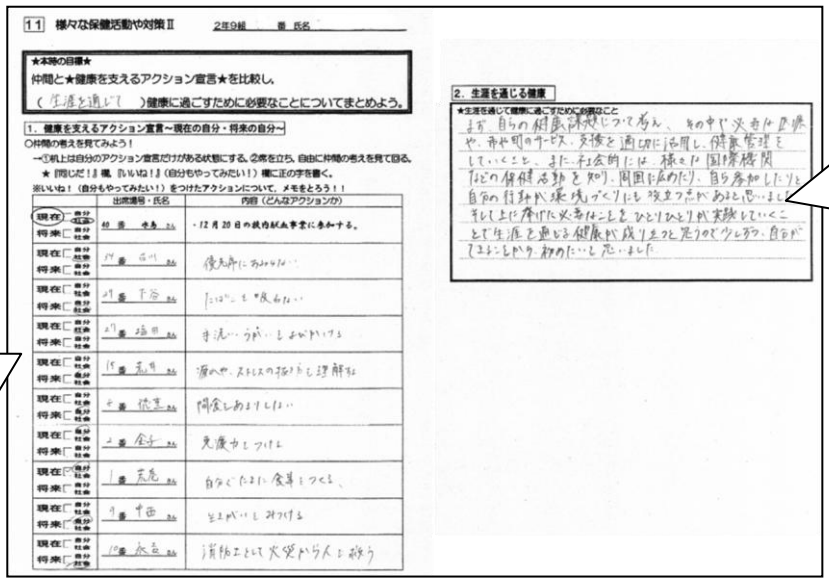
現在の自分が		将来の自分が	
自分の健康を支えるために	社会の健康を支えるために	自分の健康を支えるために	社会の健康を支えるために
規則正しい生活をする中で、すいみんは1日6時間以上 食事は栄養など考えながら今よりもしっかり食べる。 間食はお菓子ではなくおにぎりなどの炭水化物にする。	ぼさんをする。（重源セットや支援のため） 献血をする。（病気で血が必要な子どもや大人のため）	運動量は今より減ると思うけど毎日できるだけ運動をする。 食事をしっかり管理して、今よりも栄養について考える 喫煙をしない	献血をする。（難病の子や、病院のストックのため） 喫煙をせずに受動喫煙などをさける。
同じ！ 一 / いいね！ 丁	同じ！ 丁 / いいね！	同じ！ 丁 / いいね！ 正	同じ！ 一 / いいね！ 丁

【①】具体的な行動

【②】自分もやってみたい！と思えたら「いいね」，同じものには「同じ！」の欄に正の字を入れながら見て回る

【資料 28：授業④で活用したアクション宣言用紙】

【①】
仲間のアクション宣言を見て回り，「自分もやってみたい！・やれそうだ！」というものをメモしていく


11 様々な保健活動や対策Ⅱ　2年9組　番　氏名

★本時の目標★
仲間と★健康を支えるアクション宣言★を比較し，
（生涯を通じて　）健康に過ごすために必要なことについてまとめよう。

1．健康を支えるアクション宣言～現在の自分・将来の自分～
○仲間の考えを見てみよう！
→①机上は自分のアクション宣言だけがある状態にする。②席を立ち，自由に仲間の考えを見て回る。
★『同じだ！』欄，『いいね！』（自分もやってみたい！）欄に正の字を書く。
※いいね！（自分もやってみたい！）をつけたアクションについて，メモをとろう！！

	出席番号・氏名	内容（どんなアクションか）
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	40番 [illegible] さん	・12月20日の献血献血事業に参加する。
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	17番 [illegible] さん	後天的にあらわれ…
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	27番 下谷 さん	たばこも吸わない…
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	23番 塩田 さん	手洗い・うがい…をよくやっている
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	18番 [illegible] さん	源の中、スポーツの指導者も理解を
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	6番 [illegible] さん	間食をあまりしない
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	2番 [illegible] さん	栄養のバランスをつける
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	1番 [illegible] さん	自分でたまに食事をつくる。
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	9番 [illegible] さん	[illegible]がいしゃ みつける
現在 自分 社会 / 将来 自分 社会	10番 [illegible] さん	消防士として火災から人を救う

2．生涯を通じる健康
★生涯を通じて健康に過ごすために必要なこと
まず，自らの健康課題について考え，その中で必要な医療や，市町村のサービス，支援を適切に活用し，健康管理をしていくこと。また，社会的には，様々な国際機関などの保健活動を知り，関心を広めたり，自ら参加したりし，自分の行動が環境づくりにも役立つ点があると思いました。そして，上に挙げた必要なことをひとりひとりが実践していくことで生涯を通じる健康が成り立つと思うので少しずつ，自分ができることから，始めたいと思いました。

【②】
まとめとして「生涯を通じて健康に過ごすために必要なこと」について記述

【資料 29：授業④で活用したワークシート】

3　結果と考察

本研究では「健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒」について，「情意・態度」「思考力・判断力」「知識・理解」の 3 つの資質や能力を身に付けた生徒と捉えているため，これら 3 つ資質や能力が身に付いたかを分析した。以下に結果と考察を述べる。

A　個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを実践しようとする生徒　【情意・態度】

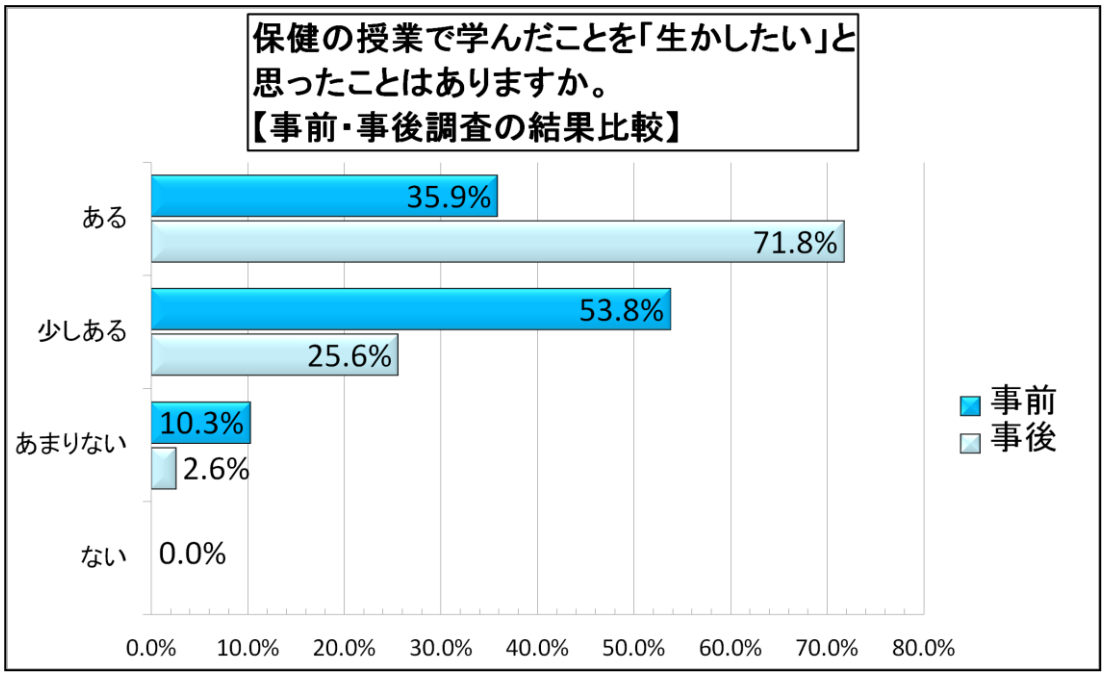
B　健康・安全の保持増進のためにとるべき行動を，個人と社会の関わり合いの中で適切な判断をすることができる生徒　【思考力・判断力】

C　健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し，理解したことを発言したり，記述したりしている生徒　【知識・理解】

（1）【情意・態度】について

授業①～④においてＣＳＩ，授業④においてＣＳⅡを用いたことで「個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを実践しようとする態度をもった生徒」の姿に迫ることができた。

その根拠の 1 つ目は，事前・事後調査の結果の変容からである【資料 34】。「保健の授業で学んだことを生活の中で『生かしたい』と思ったことはありますか。」という問いに対して，事前調査では【ある】と回答した生徒が 35.9%，【少しある】と回答した生徒が 53.8%，【あまりない】と回答した生徒が 10.3%であった。肯定的な回答が 89.7%であったが，内訳を比較すると，事後調査では【ある】と回答した生徒が 71.8%で，事前調査から 35.9%上昇した。



【資料 34：学んだことを生かしたいという意識の変容】

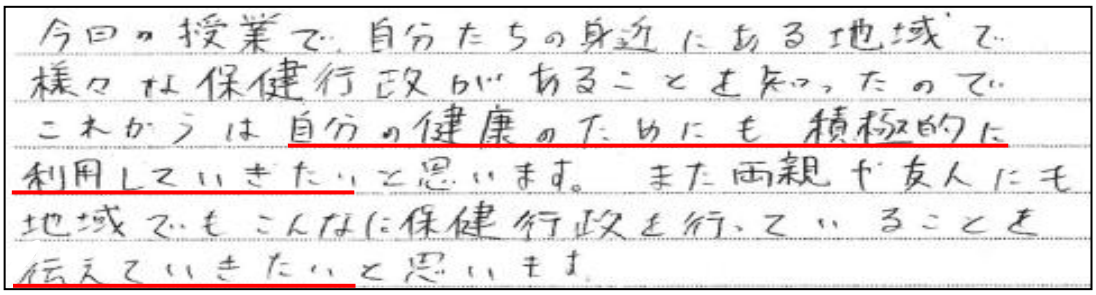
根拠の 2 つ目は，4 つの各授業の感想の記述内容の分析結果からである。各授業における生徒の記述を，【資料 35】の基準で分析した結果を以下に示す。

記述内容の分析基準	記述例
個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを基にして具体的な行動や実践をしようとする態度が読み取れる記述がある。	（学習したことをもとに） 〇〇のために，●●（行動・実践）していきたい。 〇〇の時には，●●（行動・実践）する。

【資料 35：情意・態度に関する記述内容の分析基準】

【授業①】

「保健制度とその活用」における授業の感想では，生徒Ａのように基準を満たしている記述【資料 36】が 97.4%の生徒でみられた。


今日の授業で、自分たちの身近にある地域で様々な保健行政があることを知ったので これからは自分の健康のためにも積極的に利用していきたいと思います。また両親や友人にも地域でもこんなに保健行政を行っていることを伝えていきたいと思います。

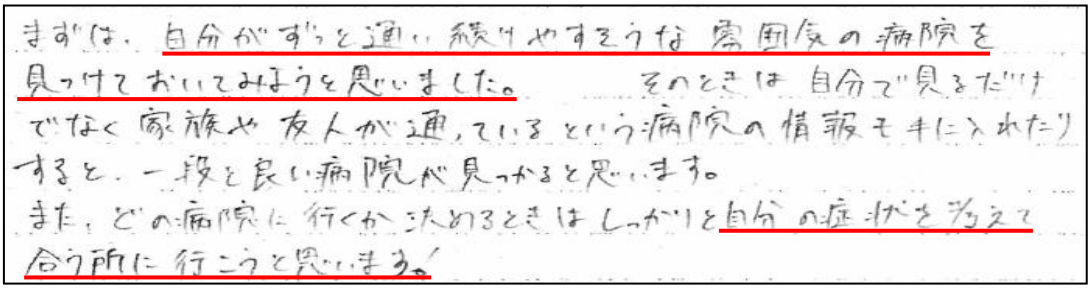
【資料 36：授業①における生徒Ａの感想】

生徒Ａは、「自分たちの身近にある地域で様々な保健行政がある」ということを学習したことで，具体的に「自分の健康のためにも積極的に利用していきたい」「両親や友人にも伝えたい」という態度を記述している。これは，個人で今の自分に適しているサービスを広報誌から探し，その後ＣＳＩによって各年代の当事者（将来の自分）になりきって，その時の考えられる健康課題や健康状況を，これまでの学習や想像を基に，なりきった人物に合う保健サービス等についてグループで調べ学習を行ったことで，実生活に即した保健サービスの活用法を見つけることができたと考える。

また，自分がなりきった年代の人物以外の年代についても，電子黒板（実物投影機）を使用したグループの発表によって知ることができたと考える。

【授業②】

「医療制度とその活用」における授業の感想では，生徒Ｂのように基準を満たしている記述**【資料 37】**が全ての生徒でみられた。


まずは、自分がずっと通い続けやすそうな雰囲気の病院を見つけておいてみようと思いました。　そのときは自分で見るだけでなく家族や友人が通っているという病院の情報も手に入れたりすると、一段と良い病院が見つかると思います。
また、どの病院に行くか決めるときはしっかりと自分の症状を考えて合う所に行こうと思います。

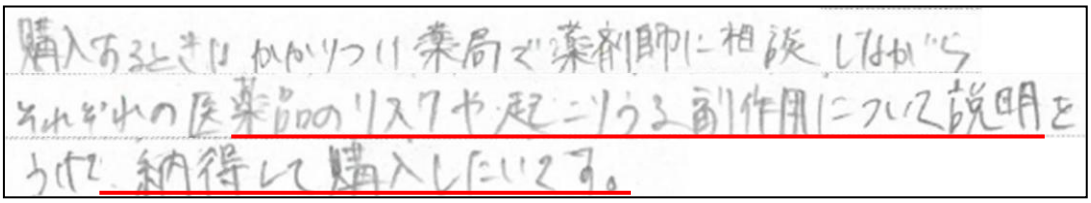
【資料 37：授業②における生徒Ｂの感想】

生徒Ｂは，自己の健康上の課題を的確に把握するためには，医療機関を適切に活用する必要性について学習したことで「自分がずっと通い続けやすそうな雰囲気の病院を見つけておいてみよう」「症状を考えて合うところに行こう」という態度を記述している。これは，ＣＳＩによって近い将来の自分になりきり，その人物の状況であれば大きな大学病院と，診療所のどちらに行くかについて，個人の考えを基にして，小集団での意見交換を行い，その後他方の病院を選択したグループの考えを，全体共有したことで，実生活における医療機関の活用についての適切な行動に気づくことができたためだと考える。

この生徒Ｂは，最初は大きな大学病院にいくことを選択していたが，日ごろからの健康管理の重要性や，そのためにもかかりつけ医をもつことの大切さを実感することができたと考える。

【授業③】

「医薬品と健康」における授業の感想では，生徒Ｃのように基準を満たしている記述**【資料 38】**が 94.9%の生徒でみられた。


購入するときはかかりつけ薬局で薬剤師に相談しながらそれぞれの医薬品のリスクや起こりうる副作用について説明をうけて納得して購入したいです。

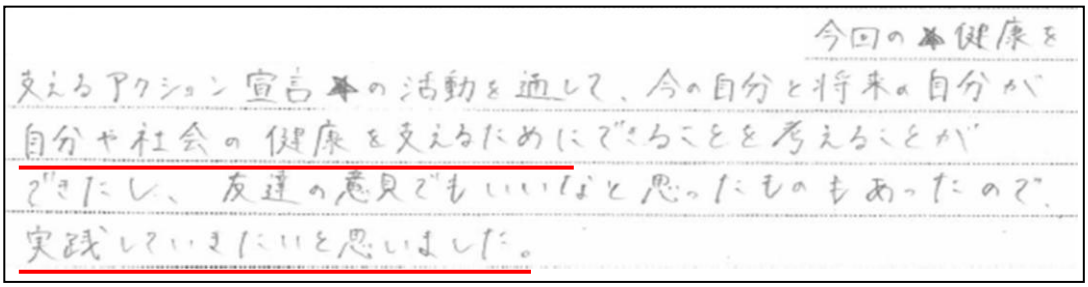
【資料 38：授業③における生徒Ｃの感想】

生徒Ｃは，「医薬品のリスクや起こり得る副作用」について学習したことで，「説明をうけて納得して購入したい」という態度を記述している。これは，医薬品に関する様々な情報を「販売者の立場で購入者に説明する」というＣＳＩによって，個人で情報を収集し，その後その情報をもち寄り，グループで出し合いながらまとめたり調べたりする学習を行なったことで，医薬品を適切に使用することの大切さに気付いたためであると考える。

この生徒Ｃが，自分で調べた項目は「医薬品の承認制度」についてであったが，記述では副作用についても記述している。これは，全体の活動で各グループからそれぞれ医薬品に関する違う項目（テーマ）について発表したことが有効に働いたと考える。

【授業④】

「様々な保健活動」における授業の感想では，生徒Ｄのように基準を満たしている記述**【資料 39】**が全ての生徒で見られた。


今回の健康を支えるアクション宣言の活動を通して、今の自分と将来の自分が自分や社会の健康を支えるためにできることを考えることができたし、友達の意見でもいいなと思ったものもあったので、実践していきたいと思いました。

【資料 39：授業④における生徒Ｄの感想】

生徒Ｄは，様々な保健活動について学習し，ＣＳＩ・ＣＳⅡにおいて，自分や社会の健康を支える立場になってできることを考える「健康を支えるアクション宣言」を，個人で考え，それを小集団で交流し，最後に全体で共有を図ったことで，自分では考えつかなかった他者のアクションに触れ，「実践していきたい」という態度を記述したと考える。

このことは，小集団での交流でワークシートを活用したことによって，他者の考えを自らの考えに付加していくことができたと考える。

しかし，「将来の自分が，将来の自分や社会の健康を支える」項目において，「飲酒をしない」「喫煙をしない」「募金をする」を記述している生徒が多く，社会環境づくりへの具体的な行動の記述が少なかったことは課題である。

本研究の検証授業とほぼ同じ期間に，本校の生徒育成部保健課主催の校内献血事業の参加募集が行われていた。検証授業が全て終了した時点で，対象クラスからの参加希望者は０名であったが，後に再募集が行われた際には，対象クラスから６名の献血参加者希望者がいた**【資料 40】**。参加し

【資料 40：校内献血事業の様子】

た生徒は全員初めての献血であったようで，大変緊張しながらも**『すごく良いことをした気分がする』『またやりたい』**と言っていた。参加しなかった生徒の数名に話を聞くと，**『参加したかったけど年齢制限**（男子 17 歳以上，女子 18 歳以上）**があったのでできなかったんですよ。誕生日が来たら絶対に行きます！』『献血のあと運動は控えるように言われたので…部活がない日に行ってみたいです！』**等と言っていた。

実際に献血に行った生徒がいたのは，本研究の実践授業が彼らの背中を押し，行動を起こすきっかけの一つにはなったのではないかと考える。

これらのことから，授業①～④においてＣＳⅠ，授業④においてＣＳⅡを用いたことは，「個人や社会の健康・安全の保持増進のために，学んだことを実践しようとする態度をもった生徒」の姿にするために有効であったと考える。

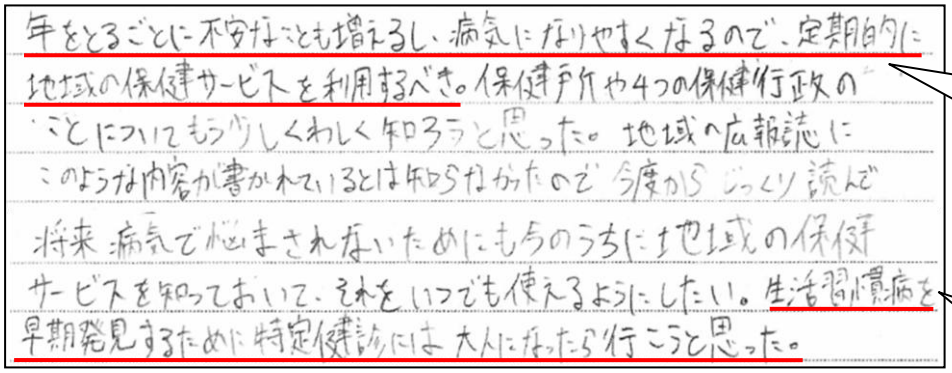
（２）【思考力・判断力】について

授業①②においてＣＳⅠを用いたことで「健康・安全の保持増進のためにとるべき行動を，個人と社会の関わり合いの中で適切な判断をすることができる生徒」の姿に迫ることができた。

根拠としては，授業①②におけるまとめの記述内容の分析結果からである。それぞれの分析基準と結果及び評価Ａの記述例を【資料 41】【資料 42】に示す。

授業①「保健制度とその活用」

記述の内容	保健サービスの活用について ①習得した知識を基に，現在及び将来の自分の生活に即して，適切な行動を記述している。 ②保健サービスを活用することの必要性について記述している。		
評価	A	B	C
分析基準	①②のいずれも具体性や理由も記述している。	①②のいずれも記述している。	A，B以外
割合	46.2%	51.3%	2.5%


年をとるごとに不安なことも増えるし、病気になりやすくなるので、定期的に地域の保健サービスを利用するべき。保健所や4つの保健行政のことについてもう少しくわしく知ろうと思った。地域の広報誌にこのような内容が書かれているとは知らなかったので今度からじっくり読んで将来病気で悩まされないためにも今のうちに地域の保健サービスを知っておいて、それをいつでも使えるようにしたい。生活習慣病を早期発見するために特定健診には大人になったら行こうと思った。

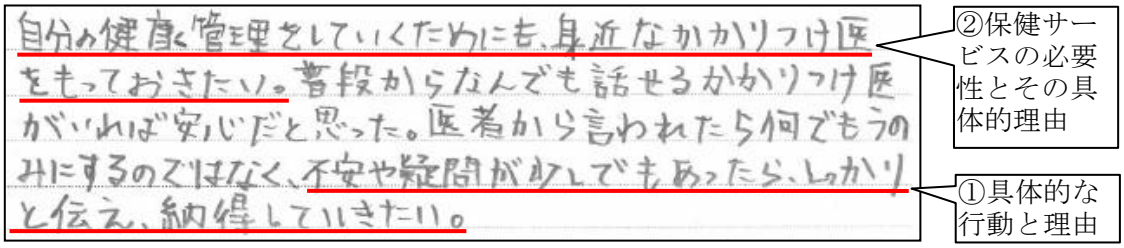
②保健サービスの必要性とその具体的理由

①具体的な行動と理由

【資料 41：授業①のまとめの記述内容分析基準と結果（上段）及び評価Ａの記述例（下段）】

授業②「医療制度とその活用」

記述の内容	医療サービスの活用について ①習得した知識を基に，現在及び将来の自分の生活に即して，適切な行動を記述している。 ②病院や診療所等の医療機関を適切に活用することの必要性について記述している。		
評価	A	B	C
分析基準	①②のいずれも具体性や理由も記述している。	①②のいずれも記述している。	A，B以外
割合	30.8%	61.5%	7.7%


自分の健康管理をしていくためにも、身近なかかりつけ医をもっておきたい。普段からなんでも話せるかかりつけ医がいれば安心だと思った。医者から言われたら何でもうのみにするのではなく、不安や疑問が少しでもあったら、しっかりと伝え、納得していきたい。

②保健サービスの必要性とその具体的理由

①具体的な行動と理由

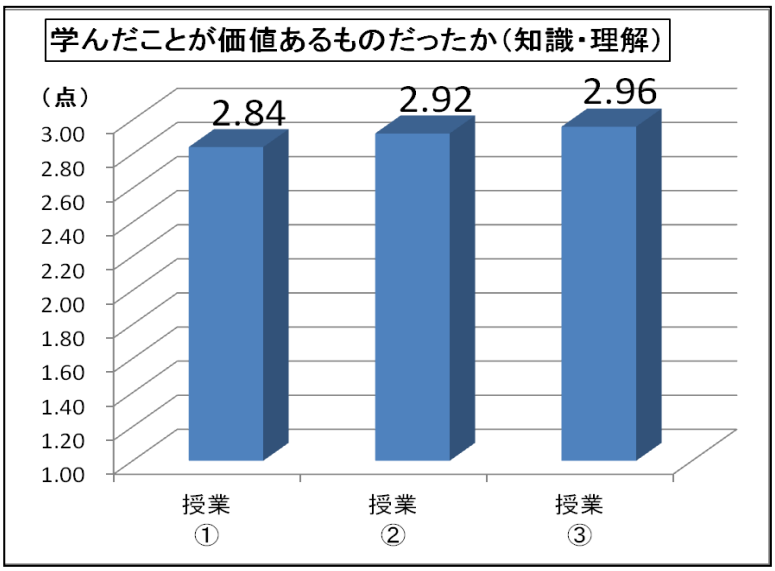
【資料 42：授業②のまとめの記述内容分析基準と結果（上段）及び評価Ａの記述例（下段）】

これらのことから，授業①②においてＣＳＩを用いたことは「健康・安全の保持増進のためにとるべき行動を，自己と社会の関わりの中で適切な判断をすることができる生徒」の姿に迫るために有効であったと考える。

（３）【知識・理解】について

授業①～③においてＣＳＩを用いたことで「健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し，理解したことを発言したり，記述したりしている生徒」の姿に迫ることができた。

その根拠の１つ目は，学習過程評価票の結果からである。「学んだことが価値あるものだったか」という知識・理解を測る 4 項目のクラス平均得点（3 点満点）の推移が，授業①②③の全ての授業で 2.80 点以上の高い値を示しており，どの授業においても生徒は学習内容が理解でき，価値を見出すことができたと考えられる**【資料 43】**。



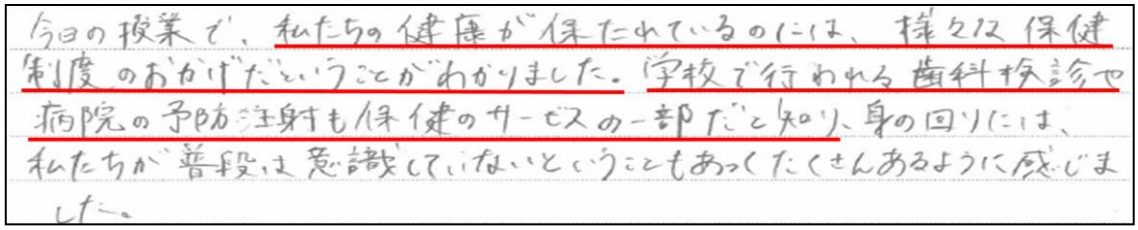
【資料 43：学習過程評価票（知識・理解）の結果】

根拠の２つ目は，３つの授業のまとめの記述内容の分析結果からである。各授業における生徒の記述を，**【資料 44】**の基準で分析した結果を以下に示す。

記述内容分析の基準	記述例
健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し理解したことを記述がある。	**○○（学習内容）について分かった。** **○○（学習内容）について知ることができた。**

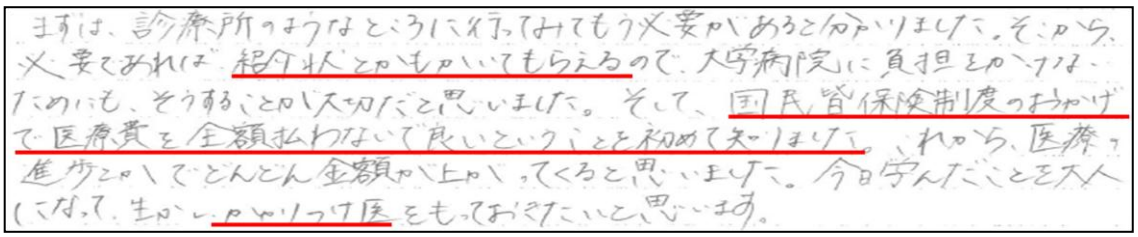
【資料 44：知識の習得・理解に関する記述内容分析の基準】

授業①「保健制度とその活用」の授業では，生徒Ｅのように基準を満たしている記述を 92.3%の生徒でみられた。**【資料 45】**


今日の授業で、私たちの健康が保たれているのには、様々な保健制度のおかげだということがわかりました。学校で行われる歯科検診や病院の予防注射も保健のサービスの一部だと知り、身の回りには、私たちが普段は意識していないということもあってたくさんあるように感じました。

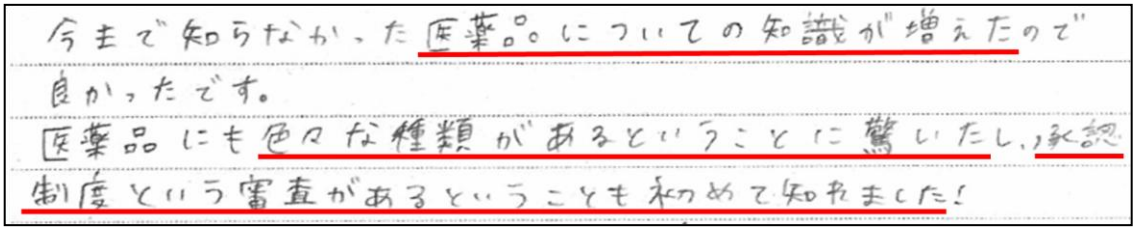
【資料 45：授業①における生徒Ｅのまとめより】

授業②「医療制度とその活用」の授業では，生徒Ｆのように基準を満たしている記述を 89.7%の生徒でみられた。**【資料 46】**


まずは、診療所のようなところに行ってみてもう必要があると分かりました。そこから、必要であれば紹介状とかもかいてもらえるので、大学病院に負担とかかけないためにも、そうすることが大切だと思いました。そして、国民皆保険制度のおかげで医療費を全額払わないで良いということを初めて知りました。これから、医療の進歩とかでどんどん金額が上がってくると思います。今日学んだことを大人になって、しっかりつけ医をもっておきたいと思います。

【資料 46：授業②における生徒Ｆのまとめより】

授業③「医薬品と健康」の授業では，生徒Ｇのように基準を満たしている記述を 97.4%の生徒でみられた。**【資料 47】**


今まで知らなかった医薬品についての知識が増えたので良かったです。
医薬品にも色々な種類があるということに驚いたし、承認制度という審査があるということも初めて知れました！

【資料 47：授業③における生徒Ｇのまとめより】

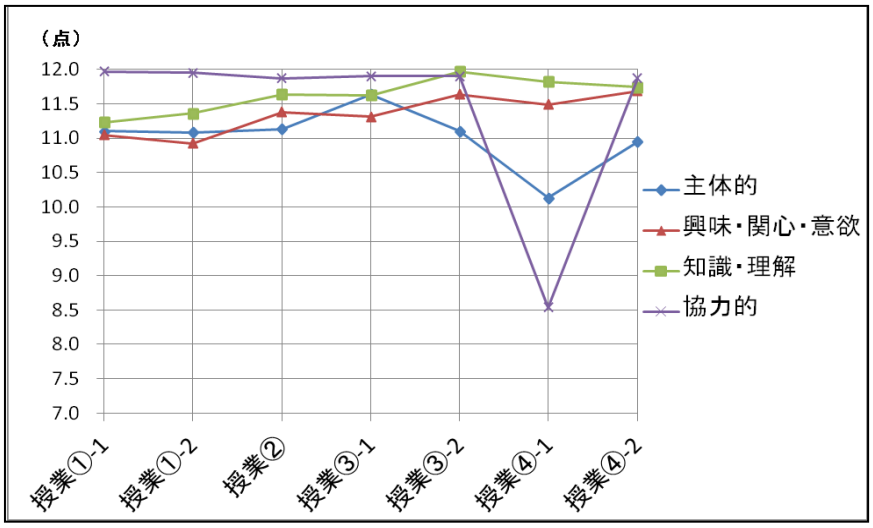
これらの根拠から，授業①～③においてＣＳＩを用いたことは「健康・安全を保持増進するために必要な知識を習得し，理解したことを発言したり，記述したりしている生徒」の姿にするために有効であったと考える。

Ⅶ　全体考察

1　ケーススタディーの位置付け方の工夫

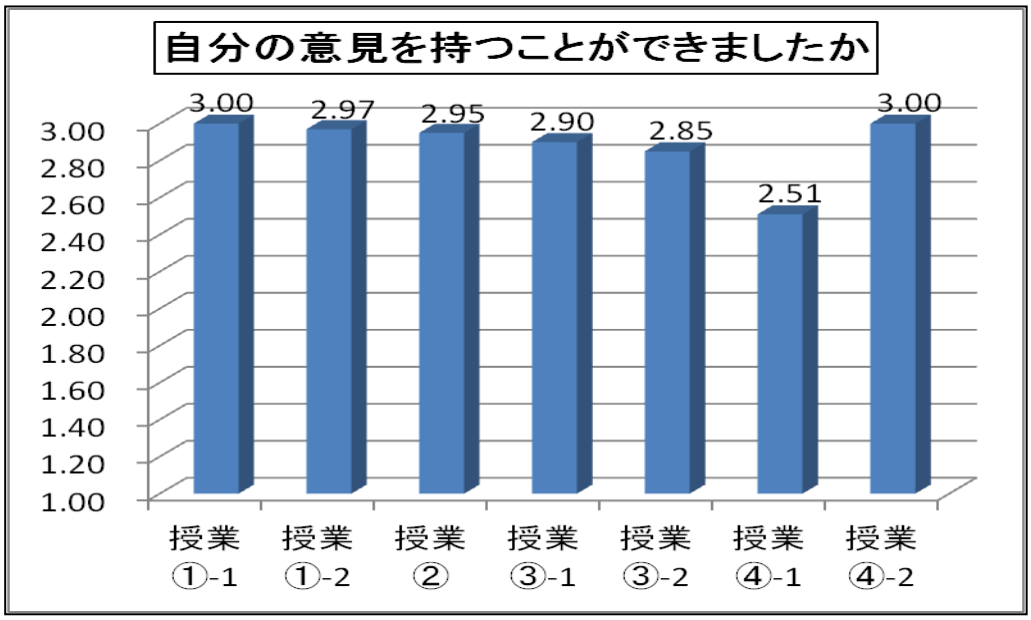
ＣＳⅠ・ＣＳⅡをねらいに応じて選択し，それらを基に「1．個人」「2．小集団」「3．全体」の活動を行ったことで，「健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒」を育てることができた。

根拠の１つ目は，学習過程評価票における授業評価の結果からである【資料 48】。これらから分かるように「主体的」，「興味・関心・意欲」，「知識・理解」，「協力的」，の４つの観点（4 項目 12 点満点）の１観点以外が，10 点以上の高得点で推移している。



【資料 48：学習過程評価票による生徒の授業評価の結果】

また，学習過程評価票の「自分の意見をもつことができましたか」という質問項目のクラス平均得点（3 点満点）は，全ての授業において 2.5 点以上であった。個人の意見を，小集団や全体で考えを深める活動を行ったことで，様々な状況下においても自分の意見をもち，判断することができる力が備わったと考えられる【資料 49】。



【資料 49：学習過程評価票の結果】

根拠の２つ目は，生徒の記述からである。生徒Ｈは，授業①終了時の感想にケーススタディーの有効性【資料 50】が窺える，生徒Ｉは事後調査の質問紙に３段階の個人の考えを深める活動の有効性【資料 51】が窺える記述をしていた。

今日の授業では、もしこういう人物だったら、を想定して探して、
実際に本人に合うようなサービス等を見つけられたので、今後
自分にも何か困ったことや改善したいことがあったりした時は、
自分の地域の広報誌から自分に合ったサービス等を探してみようと
思いました。

【資料 50：ケーススタディーの有効性が窺える生徒Ｈの記述】

生徒Ｈは，「もしこういう人物だったら，を想定して（中略）サービス等を見つけられた」「今後自分にも（中略）探してみようと思いました」と記述している。これは，ケーススタディーを行ったことで，当事者意識をもち，将来の自分の実生活での行動を考え，健康の保持増進のための具体的な行動を選択することができたと考える。

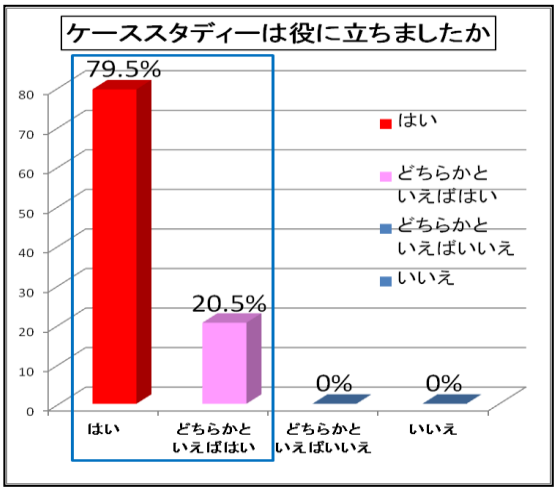
また，生徒Ｉは，事後調査における「印象に残った学習内容や学習活動は何ですか。またその理由を書いて下さい」の質問で，「各授業のグループ活動」を選択し，その理由を次のように記述していた【資料 51】。

他の人に伝えたり教えたりすることは、自分が理解していないと
できないことなのでよく調べ、自分も覚えることができ理解が深まった。
また、自分以外の人の調べたことや考えたことをきくことで様々な考えを持つ
ことができた。

【資料 51：３段階の活動の有効性が窺える生徒Ｉの記述】

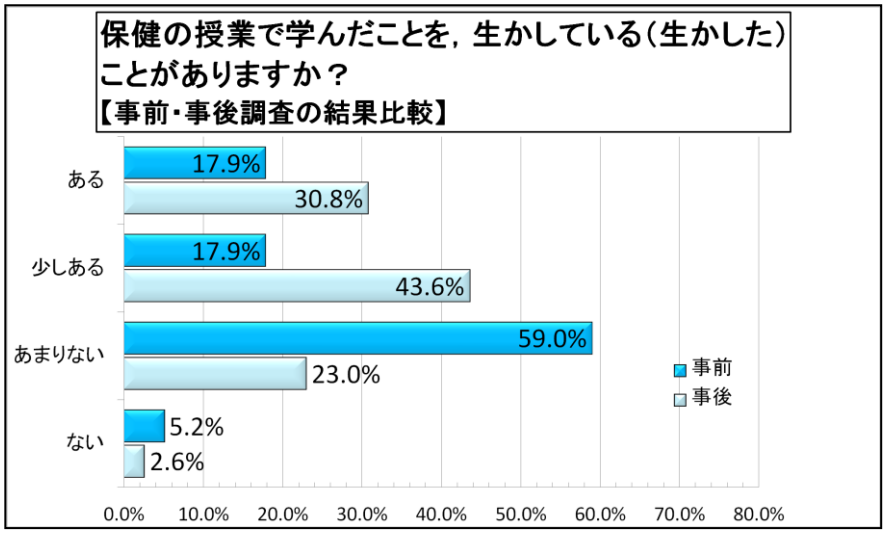
生徒Ｉは，「他の人に伝えたり教えたりすることは（中略）理解が深まった」「自分以外の人の調べたこと（中略）様々な考えを持つことができた」と記述している。これは，「1．個人」の活動での自分の考えや意見，学習内容の理解が，「2．小集団」で行った調べ学習や話し合い活動，さらには「3．全体」で行った発表等によって深まったり，広がったりしたということが窺える。

根拠の３つ目は，事後調査の結果からである。「ケーススタディーは，当事者意識をもったり，考えを深めたりするのに役立ちましたか」という質問に対して，「そう思う」と回答した生徒が 79.5%，「少し思う」と回答した生徒が 20.5%と，全ての生徒が肯定的な回答をした【資料 52】。



【資料 52：ケーススタディーに対する事後調査結果 】

さらに，事後調査において，「保健の授業で学んだことを生かしている（生かした）ことがありますか。」の問いに対しては，【ある】と回答した生徒が 30.8%，【少しある】と回答した生徒が 43.6%，【あまりない】と回答した生徒が 23.0%，【ない】と回答した生徒が 2.6%であり，事前調査と比較【資料 53】すると，学んだことを生かし，具体的な行動として実践した生徒が増えた。具体的に，どのように生かし，実践したかについても記述させたところ，「募金をした」「医薬品の添付文書を読んだ」「広報を見て，親に保健サービスについて教えた」等の記述がみられた。



【資料 53：保健の授業と実践関わる意識調査結果（事前事後の比較】

これらのことから，ケーススタディーの位置付け方の工夫は，「健康・安全に関する実践力を身に付けた生徒」を育てることに有効であったと考える。

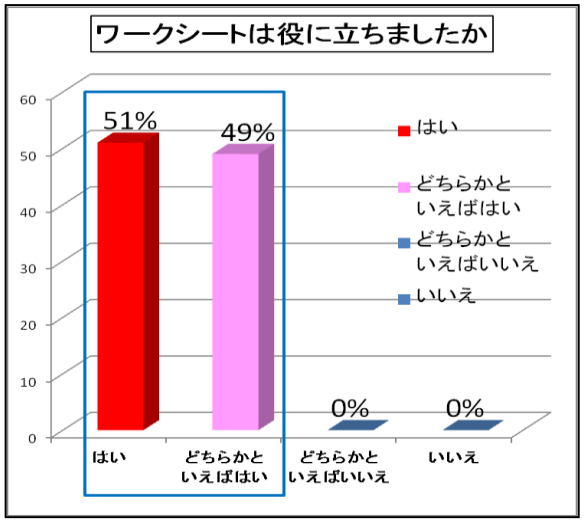
2　ケーススタディーを活発にする教師の具体的支援の工夫

（１）ワークシートの工夫について

全ての授業でワークシートを活用したことは，ケーススタディーを活発にすることにつながったと考える。

根拠の１つ目は，事後調査の結果からである。「ワークシートは，ケーススタディーや調べ学習，話し合い活動，発表等をする上で役に立ちましたか」の問いに対して，全ての生徒が「はい」「どちらかといえばはい」と答えた【資料 54】。

根拠の２つ目は授業の様相観察からである。「2．小集団」における話し合い活動をする際には，自分のワークシートを見ながら，仲間と意見交換したり【資料 20（Ｐ18．授業②）】【資料 32（Ｐ23．授業④）】【資料 55】，「3．全体」における発表の際には，発表者の発言



【資料 54：ワークシートに対する事後調査結果】

をメモしたりする姿が多く見られた。また，全ての授業の「振り返る段階」で授業のまとめや感想を記述させた際にも，知識習得のために書き込んだ箇所や，仲間の意見を書き込んだ箇所，発表を聞いてメモを取った箇所等を見直しながら，自分の考えを整理したりまとめたりしながら，記述する様子が多くの生徒でみられた。

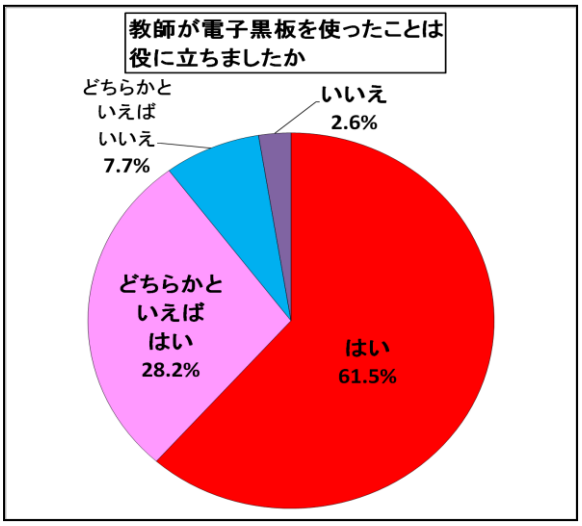
【資料 55：活動中のワークシートの使用の様子】

（２）ＩＣＴの活用について

①電子黒板

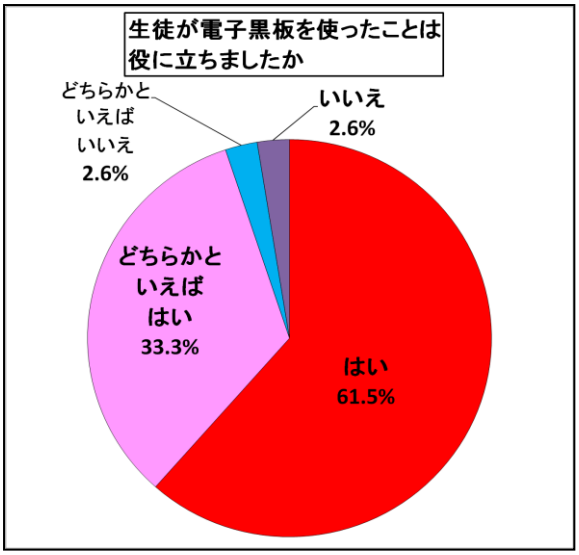
授業で教師や生徒が電子黒板を使用したことは，ケーススタディーを活発にすることにおおむね有効であったと考える。

根拠の１つ目は，事後調査の結果からである。「教師が電子黒板を使用したことは，知識の習得や様々な学習活動をする上で役に立ちましたか」の問いに対して，「はい」と回答した生徒が 61.5%，「どちらかといえばはい」と回答した生徒が 28.2%，「どちらかといえばいいえ」に回答した生徒が 7.7%，「いいえ」と回答した生徒が 2.6%であった【資料 56】。



【資料 56：電子黒板（教師使用）について】

また，「生徒が電子黒板を使用したことは，ケーススタディーや様々な学習活動をする上で役に立ちましたか。」の問いに対して，「はい」と回答した生徒が 61.5%，「どちらかといえばはい」と回答した生徒が 33.3%，「どちらかといえばいいえ」に回答した生徒が 2.6%，「いいえ」と回答した生徒が 2.6%であった【資料 57】



【資料 57：電子黒板（生徒使用）について】

このことから，授業で教師や生徒が電子黒板を使用したことは，ケーススタディーを活発にすることにおおむね有効であったと考える。

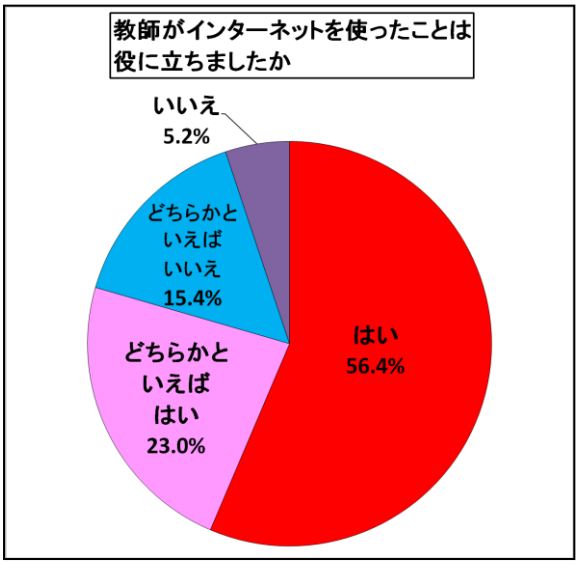
しかし，生徒が電子黒板を使用する際の課題もあった。それは，生徒が電子黒板の様々な機能を使うことがほとんどなく，一般的な「スクリーン」として資料を示しただけであったことである。電子黒板に備わっている様々な機能を駆使して発表等ができるようになるた

めには，オリエンテーションの時間等も必要なのではないかと感じた。スマートフォンやパーソナルコンピュータが普及し，ＩＣＴ機器が身近にある生徒たちは，少しの説明でも使いこなすことができるようになるのではないかと考える。まずは日頃の授業で，教師が様々な機能を活用しながら授業を行うことも必要だと感じた。だが，同時に「電子黒板を使うこと」が目的になってしまわないよう気を付けなければならないとも感じた。

②インターネット

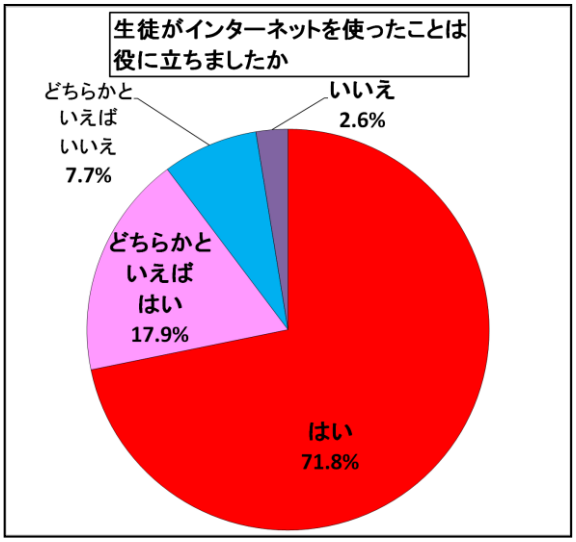
授業で教師や生徒がインターネットを使用したことは，ケーススタディーを活発にすることにおおむね有効であったと考える。

根拠の１つ目は，事後調査の結果からである。「教師がインターネットを使用したことは，知識の習得や様々な学習活動をする上で役に立ちましたか」の問いに対して，「はい」と回答した生徒が 56.4%，「どちらかといえばはい」と回答した生徒が 23.0%，「どちらかといえばいいえ」に回答した生徒が 15.4%，「いいえ」と回答した生徒が 5.2%であった【資料 58】。



【資料 58：インターネット（教師使用）について】

また，「生徒がインターネットを使用したことは，ケーススタディーや様々な学習活動をする上で役に立ちましたか。」の問いに対して，「はい」と回答した生徒が 71.8%，「どちらかといえばはい」と回答した生徒が 17.9%，「どちらかといえばいいえ」に回答した生徒が 7.7%，「いいえ」と回答した生徒が 2.6%であった【資料 59】。



【資料 59：インターネット（生徒使用）について】

根拠の２つ目は，事後調査での生徒の記述である。生徒Ｊは，事後調査における「印象に残った学習内容や学習活動は何ですか。またその理由を書いて下さい」の質問で，「パソコン（インターネット）を使った調べ学習（授業③）」を選択し，その理由を次のように記述していた【資料 60】。

自分たちでインターネットなどで調べることで、今までに知らなかったことを多く知れ、自分たちでまとめてみんなに発表したことで、先生から聞くだけの授業よりも頭に残ったから。

【資料 60：生徒Ｊのインターネット使用に関する記述】

生徒Ｊは「自分たちでインターネット等で調べる（中略）先生から聞くだけの授業よりも頭に残った」と記述している。このように，インターネットを活用しての調べ学習は，生徒の主体性を引き出したり，知識を定着させたりすることにも有効であったと考える。

これらのことから，授業で教師や生徒がインターネットを使用したことは，ケーススタディーを活発にすることにおおむね有効であったと考える。

課題としては，「教師がインターネットを使用したことは，知識の習得や様々な学習活動をする上で役に立ちましたか」の問いに対して，「どちらかといえばいいえ」に回答した生徒が 15.4%，「いいえ」と回答した生徒が 5.2%であったことである。実際にインターネットを電子黒板で使用した回数が少なかったことも要因として考えられるが，生徒の興味や関心を引き出すためのインターネットの有効な活用法を検討していく必要があると感じた。

Ⅷ　研究のまとめ

１　成果

（１）「ケーススタディーの位置付け方の工夫」により，個人や社会の健康・安全の保持増進のための実践力を身に付けることができた。特に，内容のまとまりである「生涯を通じる健康」のまとめとなる，「授業④様々な保健活動」においては，アクション宣言として生徒に宣言させたが，ケーススタディーの積み重ねがあったからこそ，生徒は社会づくりに貢献しようとする態度を身に付け，自分にできる行動を具体的に考えることができた。

（２）「ケーススタディーを活発にする教師の具体的支援の工夫」により，生徒の学習内容に対する興味・関心を高めることができた。そのことが活発なケーススタディーにつながり，生徒が知識や考えを深め，具体的な行動を判断し，実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

２　課題

（１）本研究では，従来の保健学習指導に加えてケーススタディーを行ったため，生徒の活動場面に要する時間が必要であった。少ない授業時数の中で活動時間を確保し，より活動内容を充実させる工夫が必要である。

（２）今回は，「生涯を通じる健康」のまとまりで検証を行ったが，他の内容のまとまりにおいても，個人や特に社会のための健康・安全に関する実践力を育てることができるよう，さらに有効なケーススタディーの設定や位置付け方を究明したい。

引用・参考文献

・高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　2009
・中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　2008
・小学校学習指導要領　体育編　文部科学省　2008
・「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き　文部科学省　2014
・「生きる力」を育む高等学校校保健教育の手引き　文部科学省　2015
・健康な生活を送るために（平成 20 年度版）　【高校生用】　文部科学省　2008
・健康、安全等に関わる育成すべき資質能力　総則・評価特別部会　文部科学省　2016
・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校　保健体育】
国立教育政策研究所教育課程研究センター　2012
・社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理
国立教育政策研究所教育課程研究センター長　勝野頼彦　他　2013
・一目でわかるヘルスプロモーション - 理論と実践ガイドブック -　国立保健医療科学院　2008
・新版保健の授業づくり入門　森昭三・和唐正勝編著　大修館書店　2005
・現代高等保健体育　和唐正勝・高橋健夫　他著作　大修館書店　2015
・楽しい体育理論の授業を作ろう　佐藤豊・友添秀則編書　大修館書店　2011
・体育科教育　2015　8 月号　大修館書店　2015
・保健科教育の基礎　吉田瑩一郎編　教育出版　2010
・保健授業の教授 - 学習過程評価票　植田誠治　1998
・高校生の保健学習に対する意識についての研究　佐々木佳祐
http://hdl.handle.net/10132/3843　2010
・福岡県体育研究所　平成 27 年度専門研修（短期研修）講座「保健の学習指導」講義資料
西岡伸紀　2015
・平成 23 年度　長期派遣研修員　研究報告書　福岡県体育研究所　2012
・平成 24 年度　長期派遣研修員　研究報告書　福岡県体育研究所　2013
・平成 25 年度　長期派遣研修員　研究報告書　福岡県体育研究所　2014
・平成 26 年度　長期派遣研修員　研究報告書　福岡県体育研究所　2015
・平成 27 年度　長期派遣研修員　研究報告書　福岡県体育研究所　2016

おわりに

思い返せば４月１日。初めてかかってきた電話を，緊張のあまり慌てて取次ぎに失敗…。何もしていないのに私がコピーをした直後に，そのコピー機が謎のフリーズ…。そんな初日でした。

恥ずかしながら「論文」等まともに書いたことのない私は，ひたすらに先行研究を読み漁りました。「こんなの絶対に書けない…」とばかり思っていました。諸先生方の先行研究の最終ページ。そう，この「おわりに…」を読む時だけは，少し勇気を頂きました。しかし同時に，「これを自分が書く日はやってくるのだろうか…」とまた不安にもなり，たくさんの人に，何度も何度も不安を漏らしました。しかし今，私はこうしてこのページに文字を打ち込んでいます。論文はなかなか進まなかったのに，今は何ページあっても足りないと思うほど指が動きます。勝手に動きます。

おわりにあたり，月並みかもしれませんが，今私の中には「感謝」の文字しかありません。

すれ違うたびに声をかけてくださり，励まして頂きました，アクシオン福岡の梅田所長はじめ，職員の皆様，高体連事務局の皆様，体育協会の皆様，三栄ビルサービスの皆様，ＳＡＴＡスポーツ医科学研究所の皆様。明るくハツラツとしていて，いつも元気をくれた指導員の皆様。応援してくださった警備員の村田さん，手嶋さん。いつも背中を押してくれたH23 採用の同期８人，職種の違う大切な友人たち。いつも変わらない笑顔で支えてくれた家族…関わった全ての方々に支えられ，充実した研修を終えることができそうです。ありがとうございました。

そして，福岡県体育研究所の皆様。感情が表に出やすい私は，本当に幼稚で失礼な表情や態度をしていたこともあると思います。本当に申し訳ありませんでした。しかし，そんな私を温かく見守って下さり，励まして下さった幸所長，山手次長，肥後事務主査。理解することに時間のかかる私に，根気強く…本当に根気強くご指導して頂きました，山田総括指導主事，池上主任指導主事，村山指導主事，牧草指導主事，楠松指導主事。態度の悪い私を見捨てず，私の論に価値を見出してくださり，「感覚的な指導」が強かった私に，「理論と裏付け」を教えてくださった担当の内田指導主事。そして…一番近くで共に励まし合い，語り合い，時にふざけ合った同じ長研のお二人。校種を超えた「固い絆」が出来たことを本当に嬉しく思っています。一番年下の自分にとっては，最高の兄貴が二人できました。生意気ばかり言ってすみませんでした。皆様とご一緒させて頂いた時間は，私にとって一生忘れられない本当に大切な宝物となりそうです。ありがとうございました。

この研修では，本当に多くのことを感じ，学ばせて頂きました。なかでも，各校種の現場で生徒に直接関わり指導されている先生方，各校種の指導主事の先生方やその他の教育行政機関の方々…仕事の内容は多種多様ですが，全ての方々が「子供たちのために」職務を全うしているということを強く感じることができた，大変貴重な研修となりました。

改めまして，この貴重な研修の機会を与えて頂きました福岡県教育委員会に厚く御礼を申し上げるとともに，本研究を進めるに当たって，ご指導頂きました福岡県教育委員会各位に改めて深く感謝申し上げます。また，研究をバックアップしてくださいました，福岡県立筑紫中央高等学校平塚校長先生をはじめ，西川副校長先生，中神教頭先生，保健体育科の白水先生，安部先生，藤田先生，江濱先生，永松先生，前田先生，市村先生，辰見先生，２年９組担任の平山先生他，教職員の皆様，事務職員の皆様，食堂のスタッフの皆様…何より，授業に一生懸命に取り組んでくれた２年９組の39 人に，心より御礼申し上げます。

「本当にありがとうございました」

今後とも，より一層のご指導，ご鞭撻を賜りますよう，心よりお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月 17 日

長期派遣研修員　　水島　豊（福岡県立筑紫中央高等学校）